

2022（令和4）年度

学生生活アンケート報告書

和洋女子大学

2023年9月

はじめに

学生生活アンケートは和洋女子大学に学ぶすべての学生を対象とし、2年毎に実施しています。本報告書は2022（令和4）年度に実施した調査結果を総括したものです。本調査は本学の教育内容と教育環境を検証し、点検することを目的としており、調査は学生からの意見集約に留まらず、調査結果から本学の教育課題を抽出し、その課題解決の道筋を大学の「事業計画」と学部・学科の「目標と計画」に反映させており、本学の大学教育の質を点検するための資料として位置付けられるものです。また、量的な意見の集約に留まらず、学生自身の声を自由に記述できる調査を並行して実施し、学生の声を量的にも質的にも把握している点に特徴があります。

本学は2022年4月に公益財団法人大学基準協会から3度目の大学認証評価を受審し、「適合」の判断を得ています。今回の学生生活アンケート調査結果は認証評価の資料としても提出しており、本学の学生支援が適切に行われていることを実証する資料として活かされています。

2022（令和4）年度もCOVID-19のパンデミックは収束せず、授業の実施に多くの影響が続いた年でもあります。学生活動にも様々な制約が加わり、活動を中止しなければならないクラブ活動もありました。そうした特殊な環境下においても、学生は学問に真摯に向き合い、学生活動についても様々な感染対策を行いながら継続する道を探ってくれました。そうした学生の意欲を強く感じる2年間でもあり、今回の調査は学生の奮闘を浮き彫りにする結果になったと判断しています。

もちろん対面での授業、制約のない学生生活と比較すれば、やり場のないもどかしさや悔しさを学生が感じたことは間違いないと考えます。しかしそうした環境の中でも自身のやるべきことを見失わず、学生は学びや学生活動に取り組んでくれており、教職員も学生たちのその真摯で前向きな姿に安堵するとともに、学生の柔軟な精神に励まされたのも事実です。教職員にはこの学生生活アンケート結果を活用し、教育・研究活動のさらなる充実を目指し、また、学生に寄り添いながら大学らしい広範かつ専門的な教育・研究の提供を期待しています。

最後に感染対策を講じながら学びを続けてくれた学生と多様な教育を展開して下さった教職員のみな様に心より感謝する次第です。加えて、アンケートにも快く回答してくれた学生のみなさんの思いに応えるためにもこの調査結果を大学の「教育の質保証」に活かすことを約束します。

和洋女子大学 学長
岸田宏司

I 学生生活アンケートの概要

1. 調査の目的

大学の教育や学生生活に関連する課題について学生の視点で情報を収集し、発見された問題点の改善や、大学改革の方向性を見定めるための基礎データとして活用していくことを目的に、2004（H16）年度より全学生を対象とした教学・生活関連アンケート調査を実施し、今回の2022（R4）年度で16回目となる。これとは別に、『悩み・ハラスメントアンケート』としてマークシートの記入方式でハラスメント調査を実施した。なお、『悩み・ハラスメントアンケート』は、2020年度はCOVID-19のため、実施はしていない。実施運営は、大学評議会の学生生活アンケート担当者（里正明伍国際学部長、高木学生支援部門長、伊藤博康学生支援部長）と庶務課が行った。

2. 調査結果の概要と実施方法

『2022 悩み・ハラスメントアンケート』

実施期間：2022年9月中旬～10月31日まで 2012枚回収

実施方法：匿名のマークシートにて実施

（ハラスメントアンケートについての報告は、個人情報のため非公開）

①教学関連アンケート（回答目安10分/全22問） 1279名

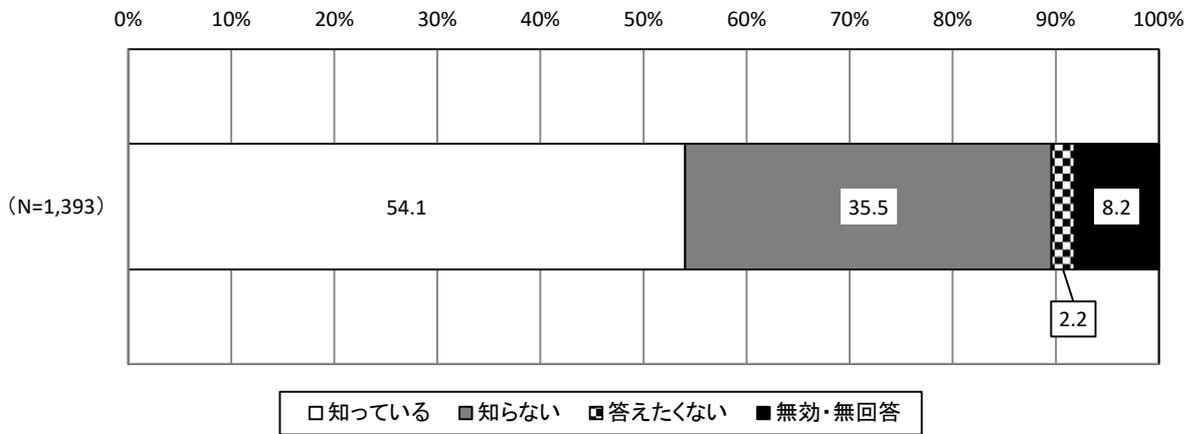
②生活関連アンケート（回答目安15分/全34問） 1328名

実施期間：2022年10月3日～11月18日の期間、マナバコースにて実施

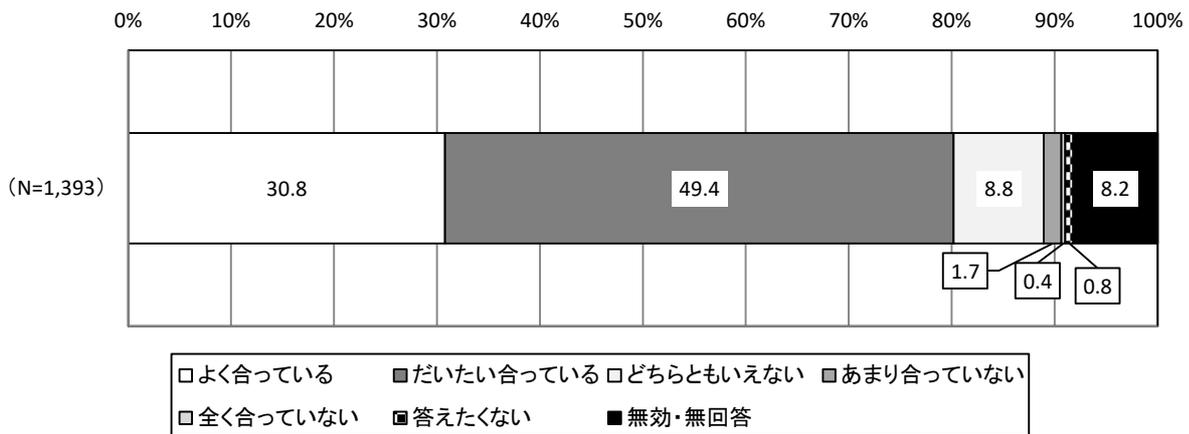
実施方法：クラウド型教育支援システム「マナバコース」を用いた

【教学関連】

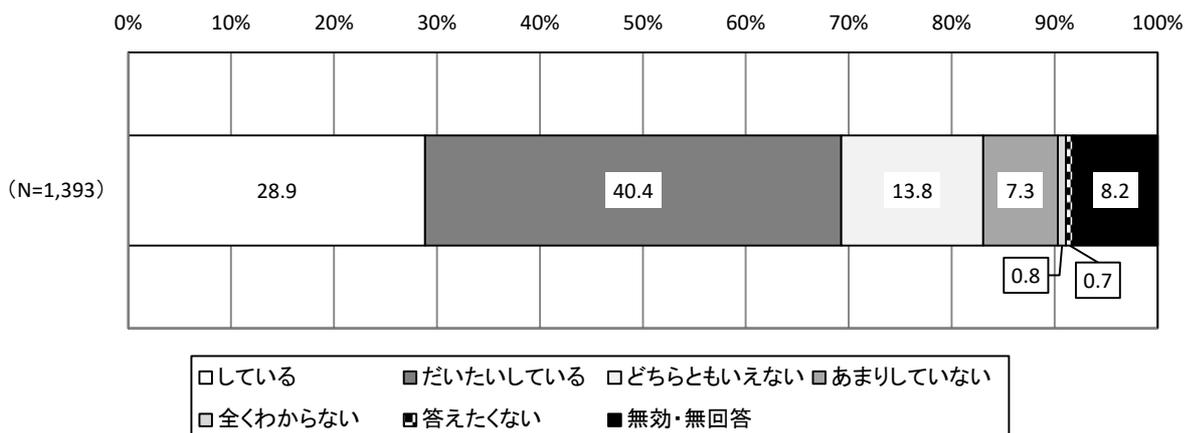
Q1. 掲げられている学科・学部の学びの目標を知っていますか(選択必須)



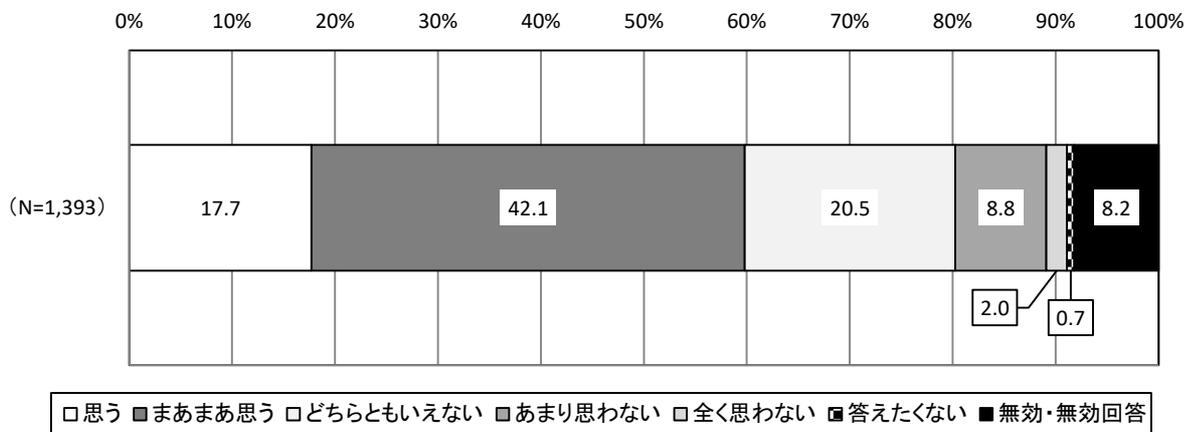
Q2. 学部・学科・専攻のカリキュラムはあなたが大学で学びたいと思っていることと合っていますか(選択必須)



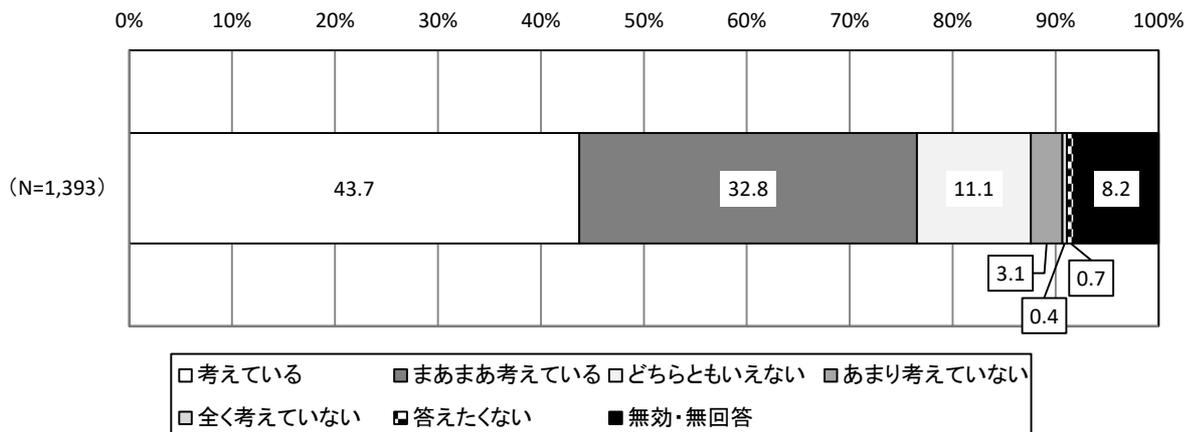
Q3. あなた自身の勉強したい目標ははっきりしていますか(選択必須)



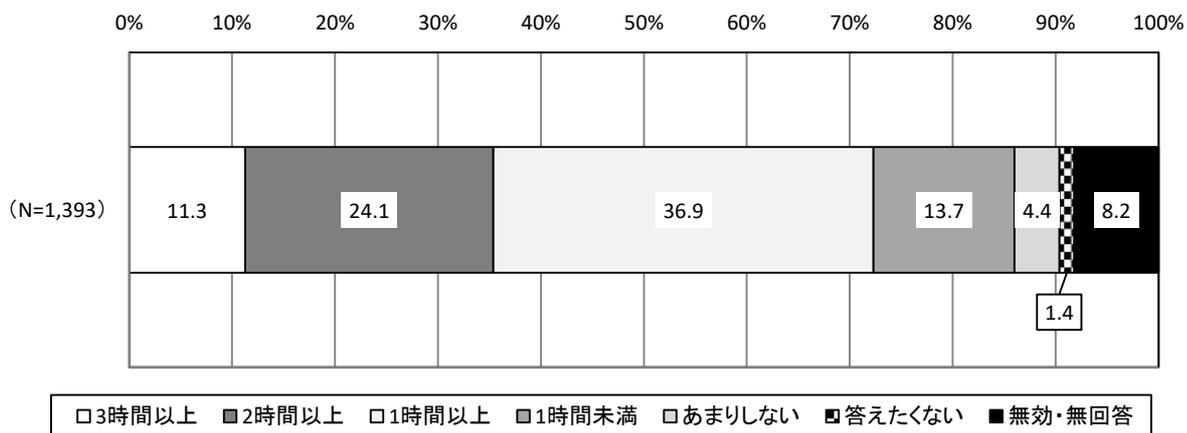
Q4. その勉強目標に向かってよく取り組めていると思いますか(選択必須)



Q5. その目標に向けて積極的に学びたいと考えていますか(選択必須)

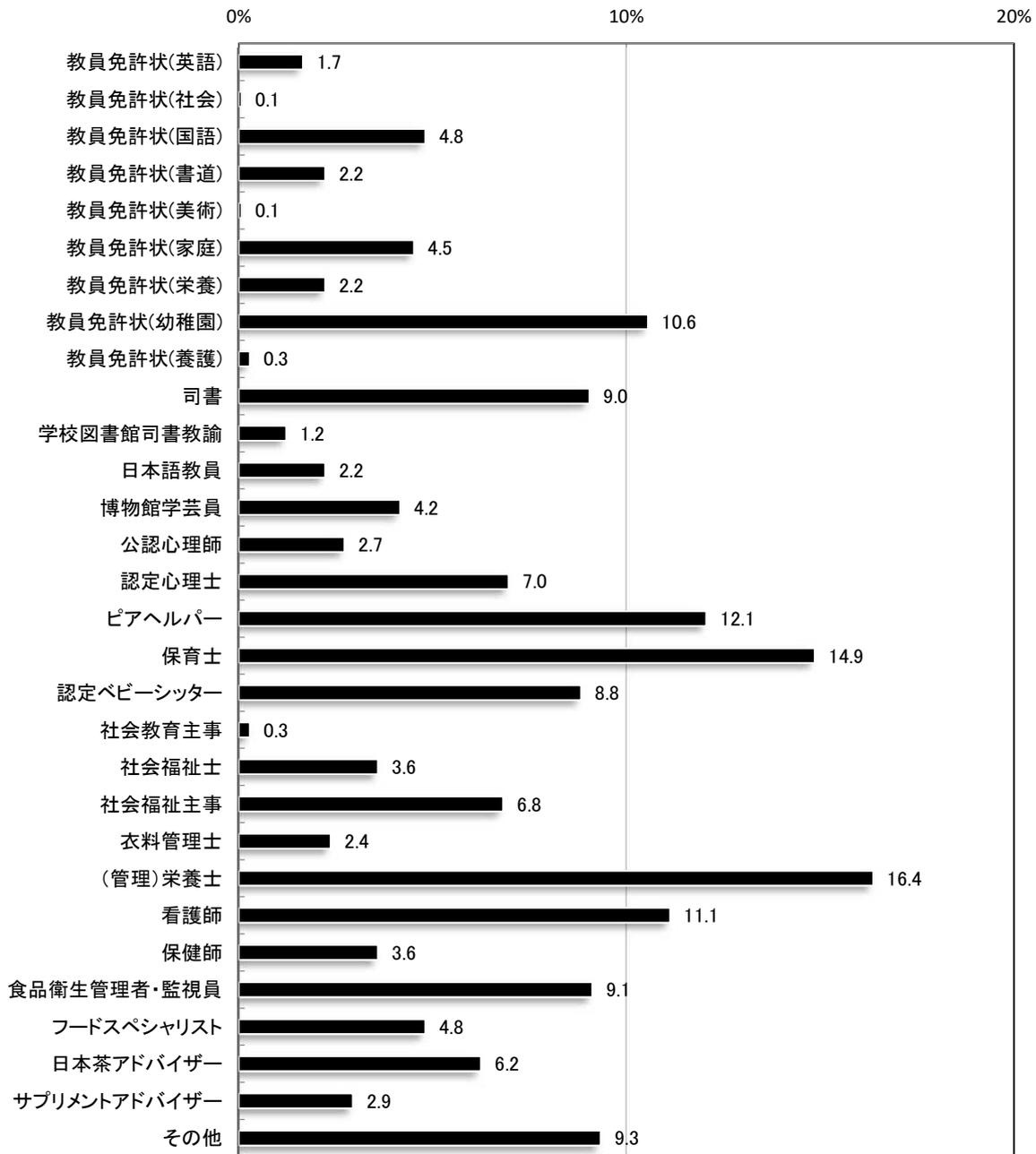


Q6. 授業以外の学修(学習)時間は平均すると1日あたりどのくらいですか。課題やレポート作成などの時間も含まれます(選択必須)

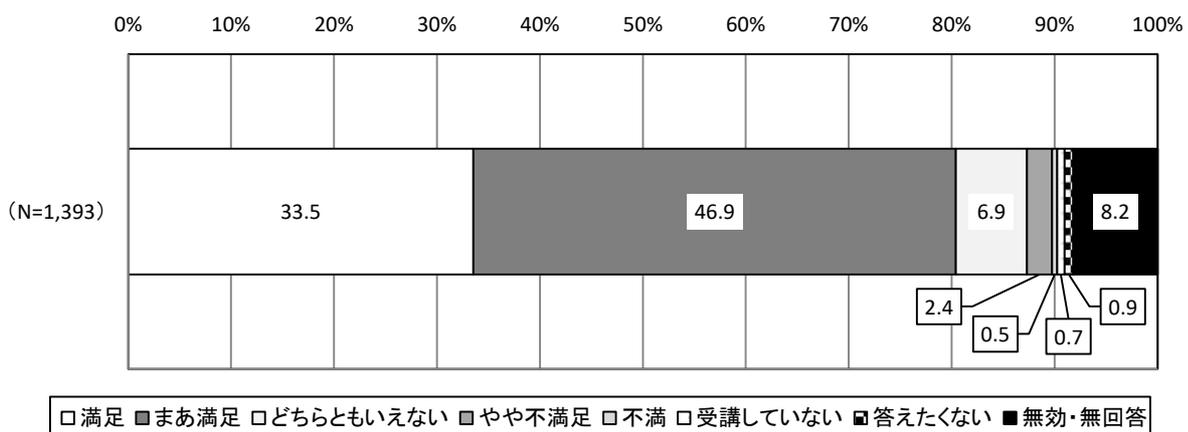


Q7. 目指している資格または取得した資格はなんですか(任意:複数回答可)

(N=2,567)

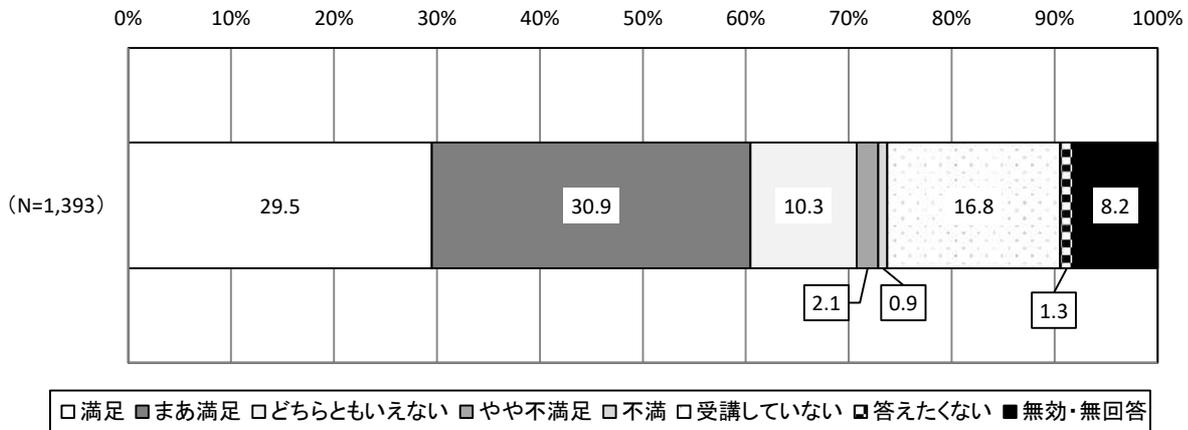


Q8. 専門科目(講義)の授業についての満足度はいかがですか(選択必須)

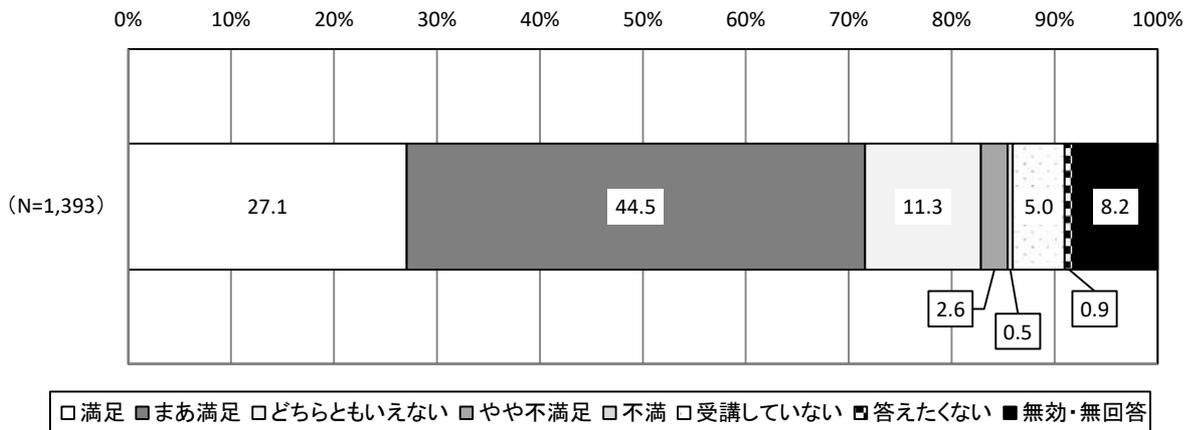


□満足 ■まあ満足 □どちらともいえない □やや不満足 □不満 □受講していない □答えたくない ■無効・無回答

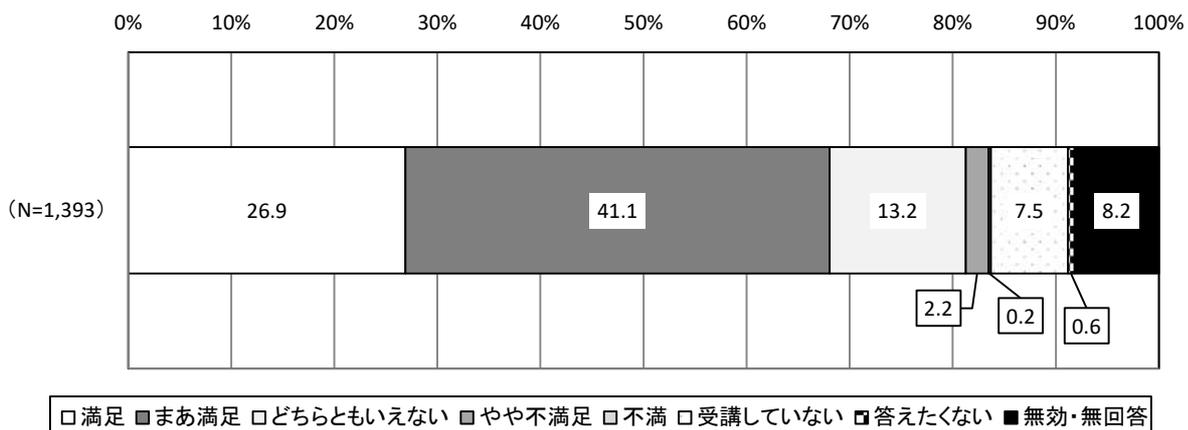
Q9. 専門科目(卒論・ゼミ・実習等)の授業について満足度はいかがですか(選択必須)



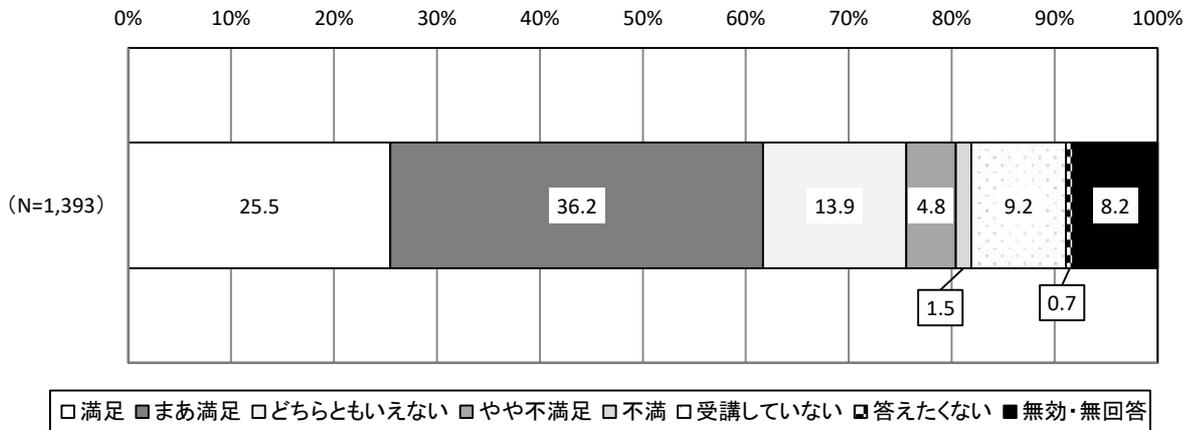
Q10. 共通総合科目(基礎教養科目:人文科学・社会科学・生活科学・人間科学)の授業についての満足度はいかがですか(選択必須)



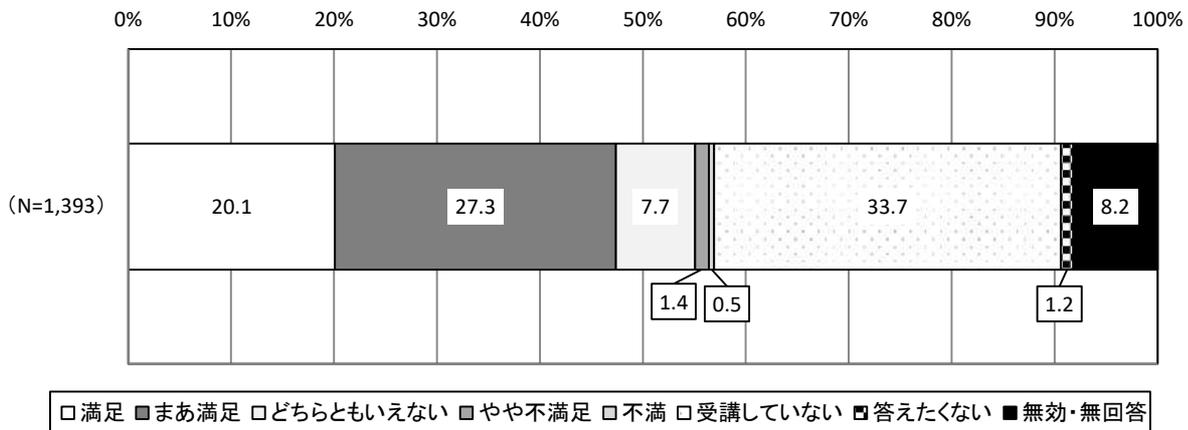
Q11. 共通総合科目(和洋アビリティーズ:基礎ゼミ・キャリアデザイン・PC科目・ベーシックラーニング)の授業についての満足度はいかがですか(選択必須)



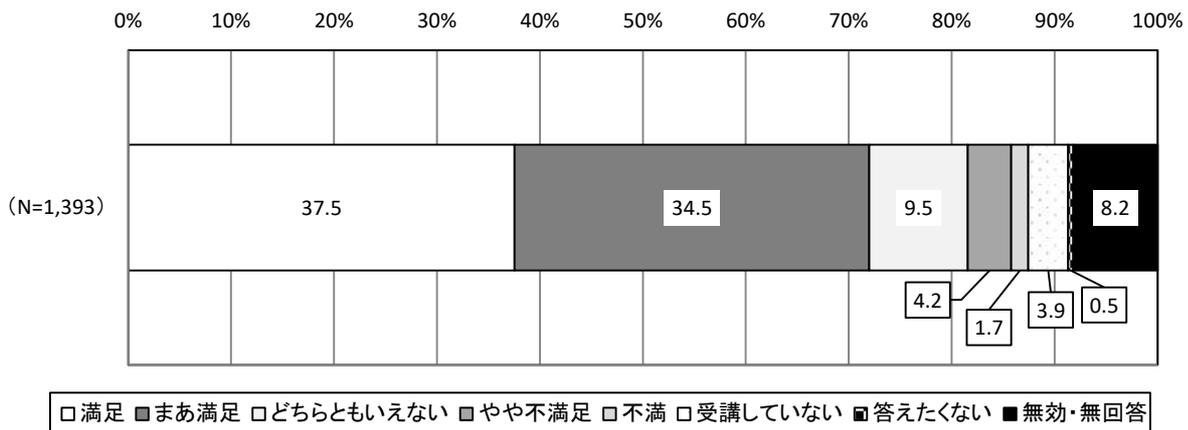
Q12. 共通総合科目(外国語科目)の授業についての満足度はいかがですか(選択必須)



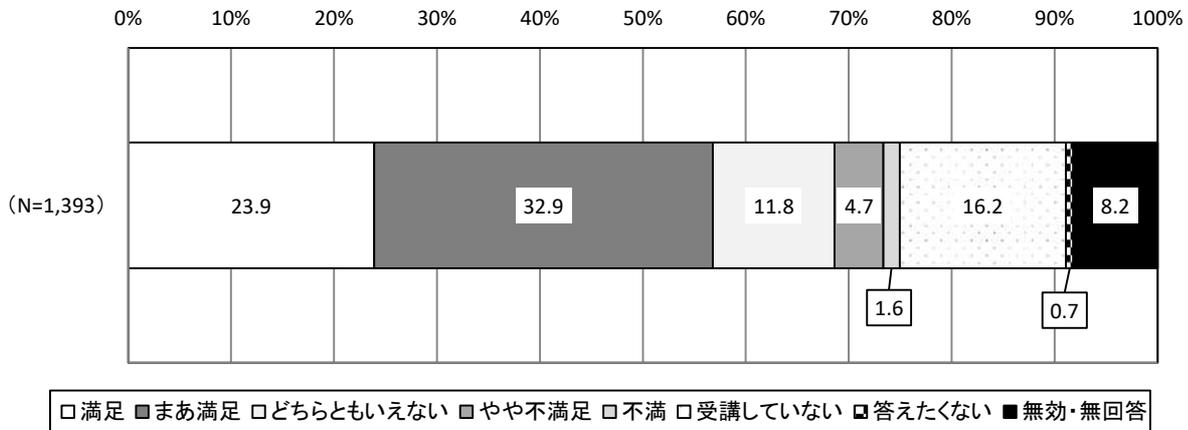
Q13. 資格科目(全学共通:教職課程・司書課程・博物館学芸員課程)の授業についての満足度はいかがですか(選択必須)



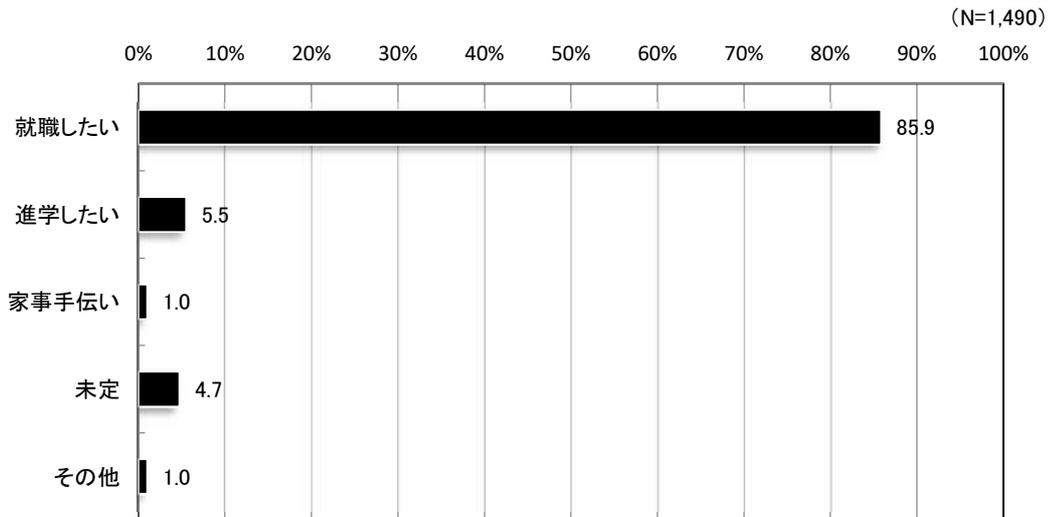
Q14. 遠隔授業(オンデマンド方式)についての満足度はいかがですか(選択必須)



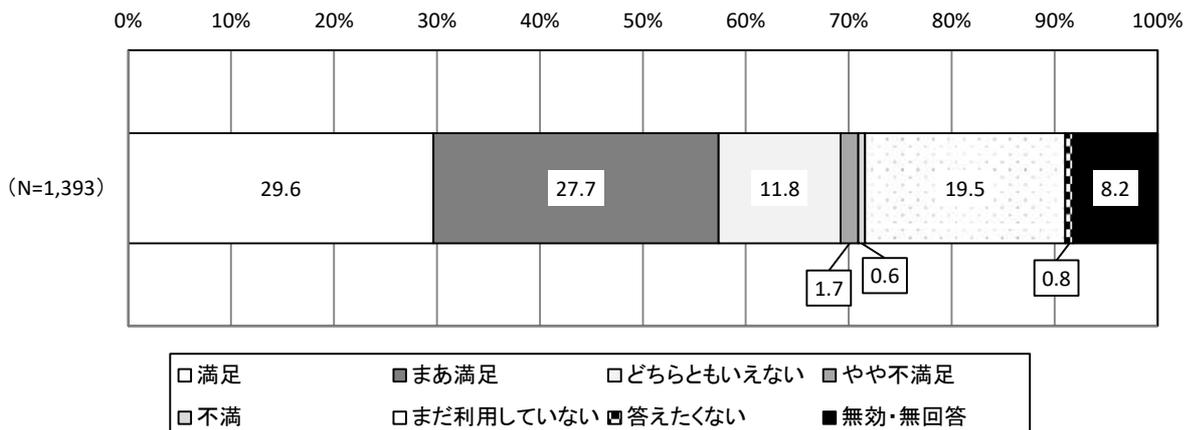
Q15. 遠隔授業(ZOOMなどによるリアルタイム方式)についての満足度はいかがですか(選択必須)



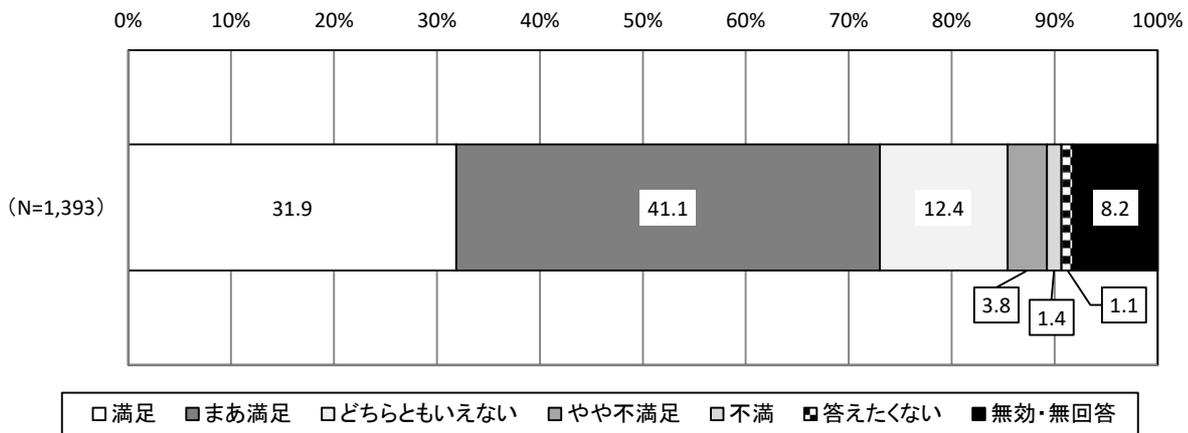
Q16. 卒業後の進路についてどのように希望していますか(任意:複数回答可)



Q17. 卒業後の就職や進学に対する大学の支援態勢についてどのように思いますか(選択必須)

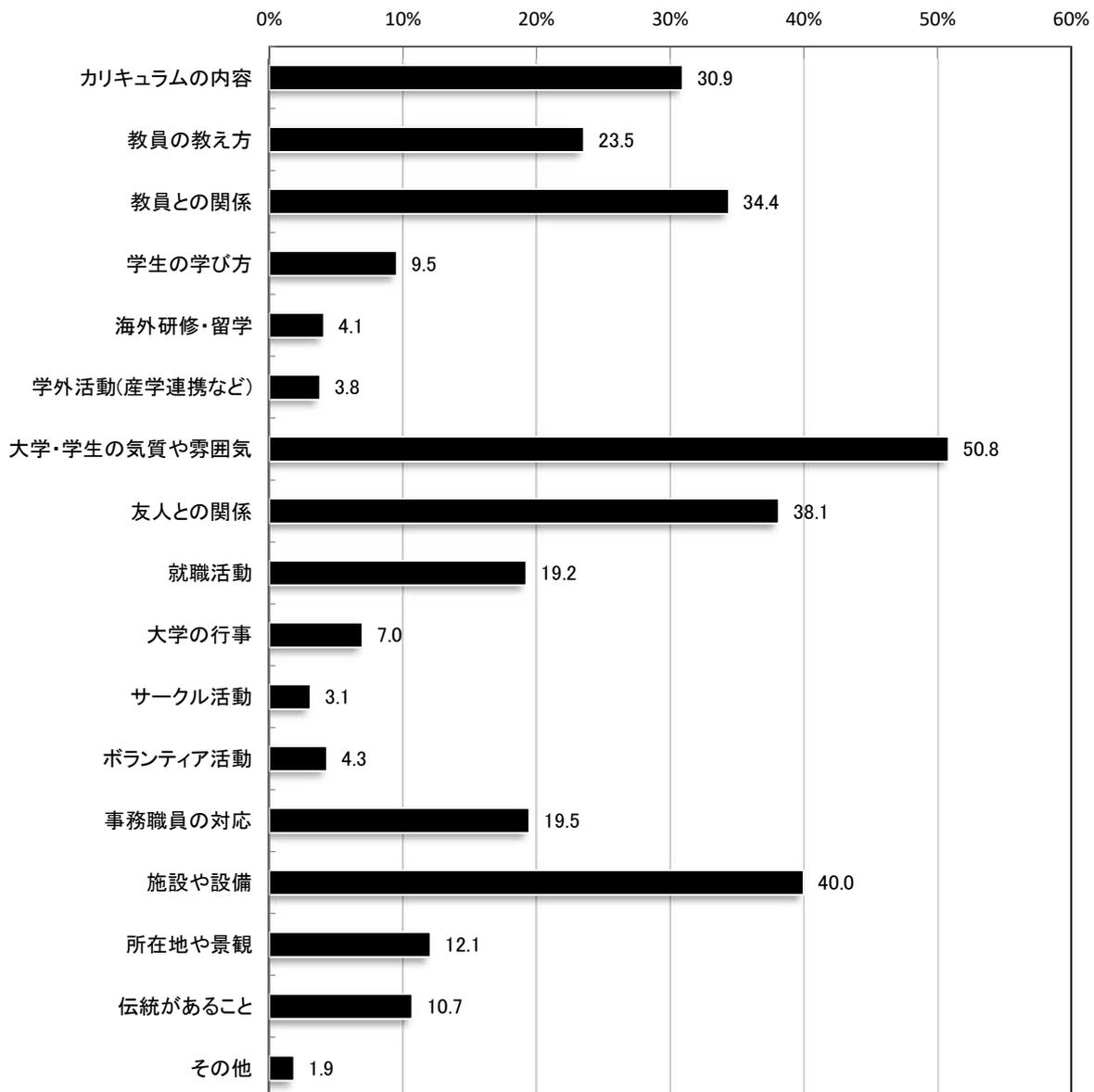


Q18. 全体的にみて和洋女子大学についてどう感じていますか(選択必須)



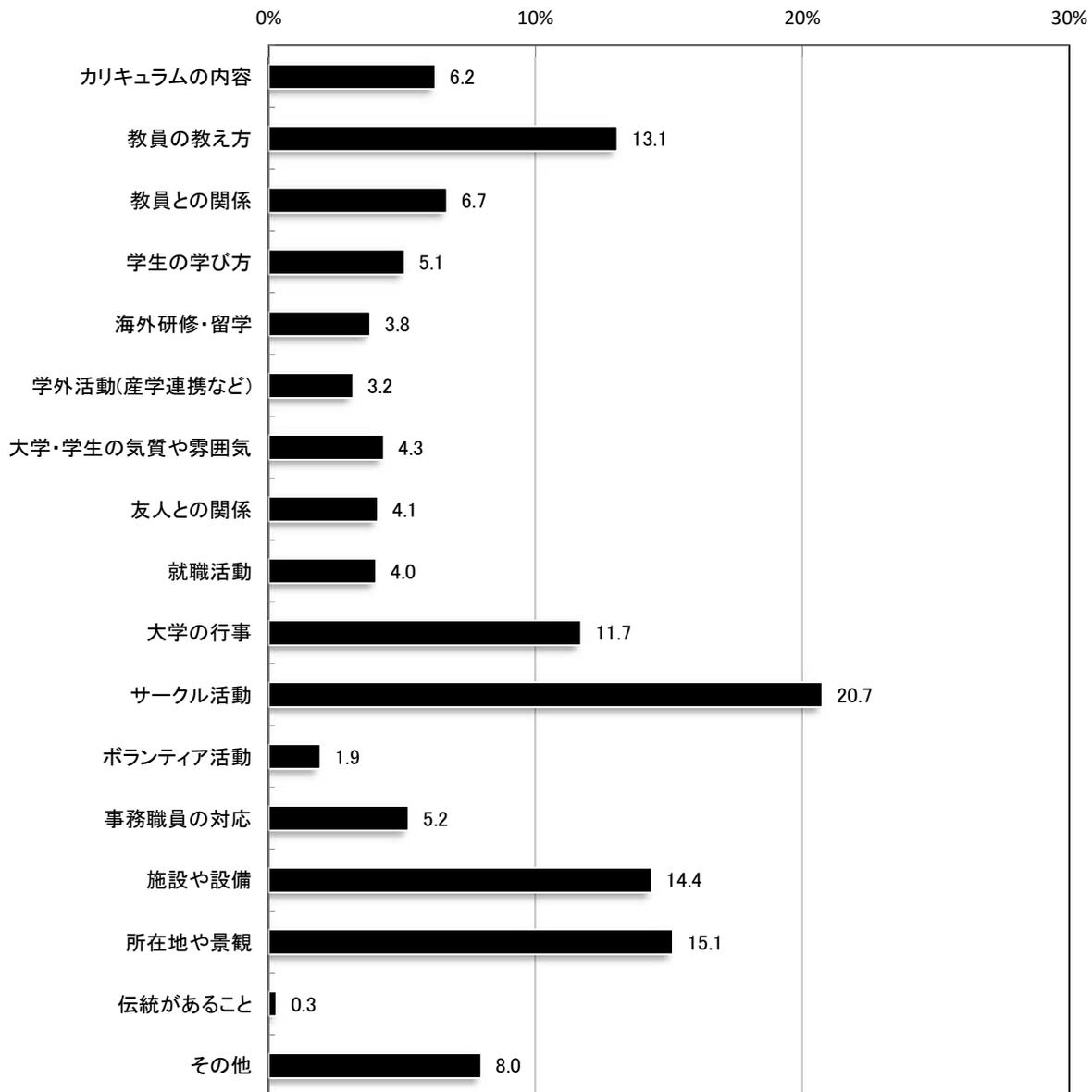
Q19. あなたが和洋女子大学で良いと思う点はどんなことですか。5つまで選んでください(選択必須)

(N=4,532)



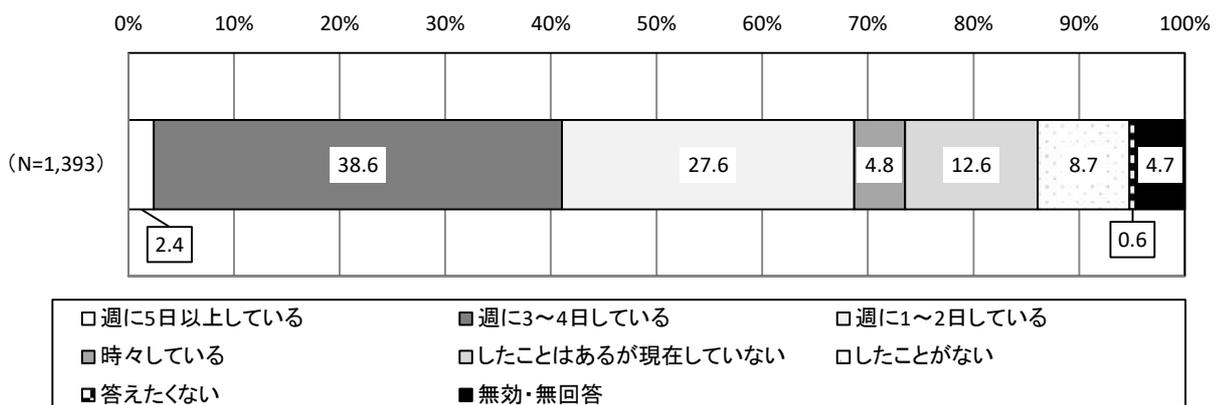
Q20. あなたが和洋女子大学で不満だと思う点はどんなことですか。5つまで選んでください(選択必須)

(N=2,308)



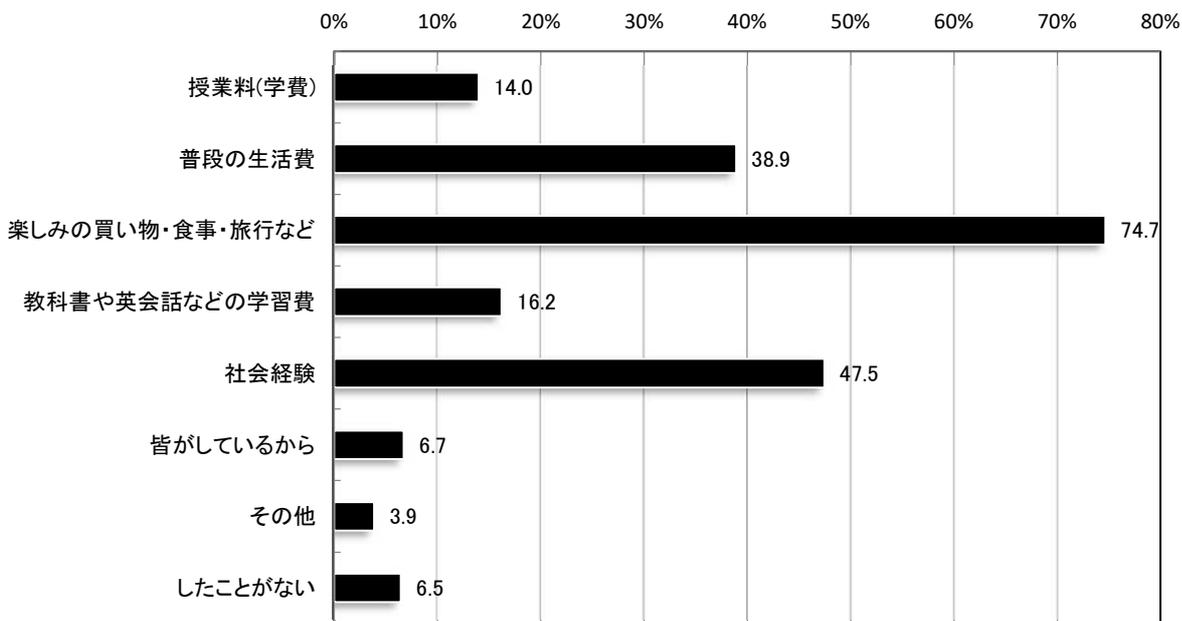
【生活関連】

Q23. アルバイトをしていますか(選択必須)



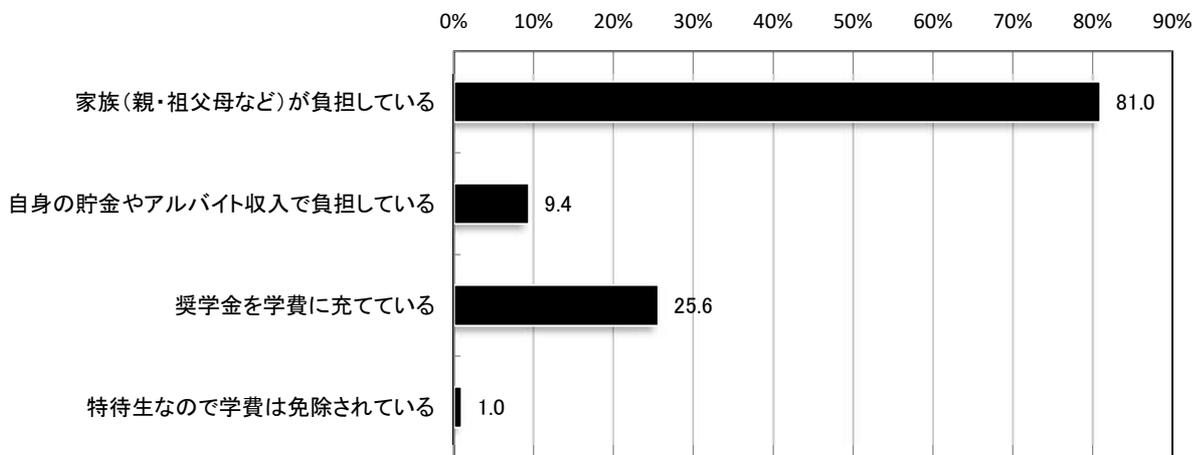
Q24. 何のためにアルバイトをしていますか(任意:複数回答可)

(N=3,035)

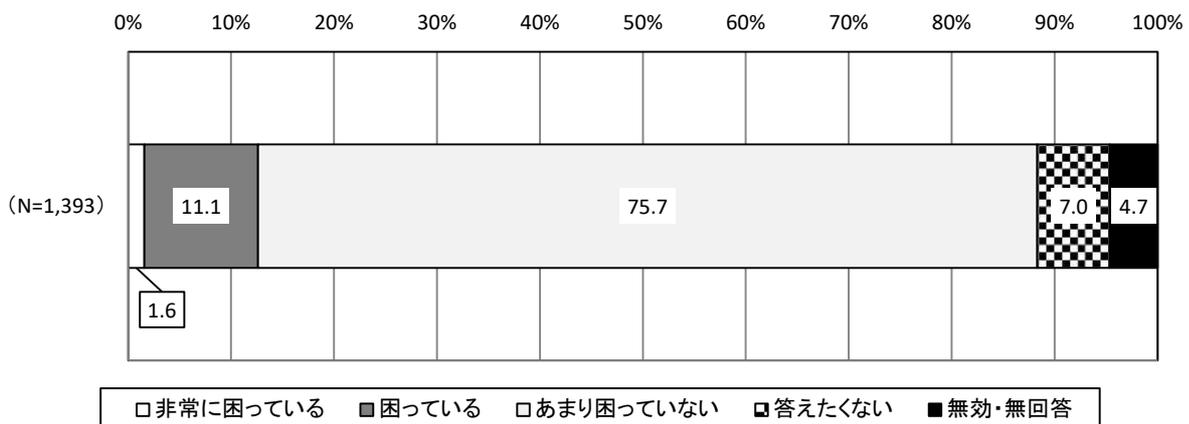


Q25. 学費はだれが負担していますか(任意:複数回答可)

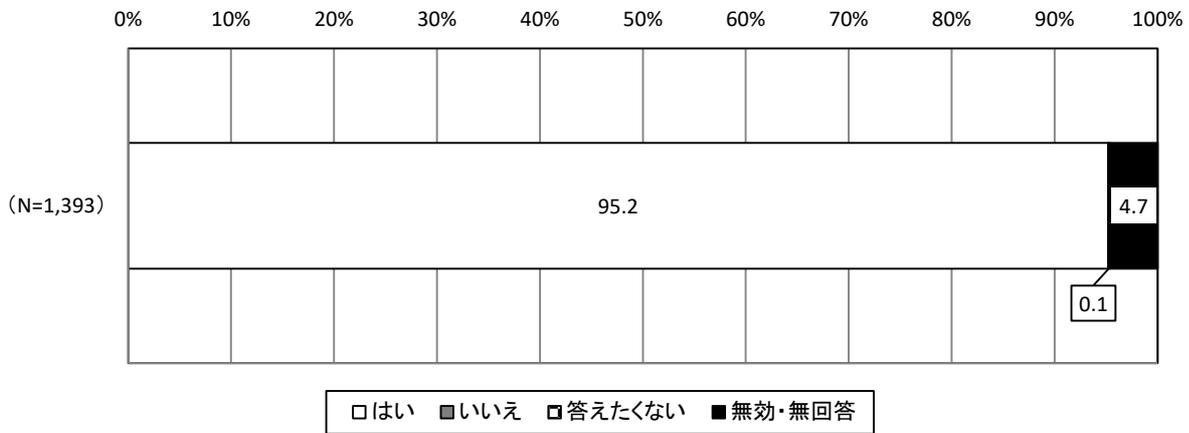
(N=1,724)



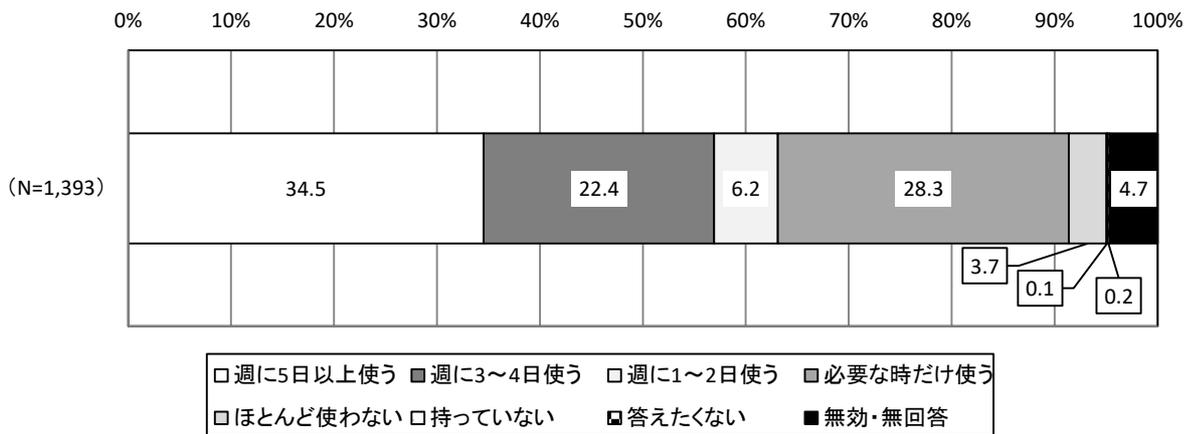
Q26. 現在の新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、経済的に困っていることがありますか(選択必須)



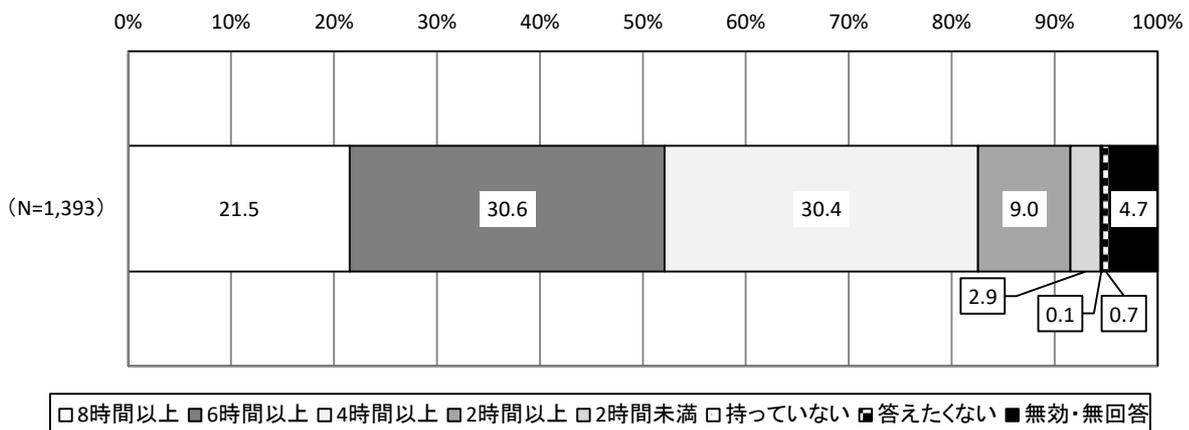
Q28. スマートフォンは持っていますか(選択必須)



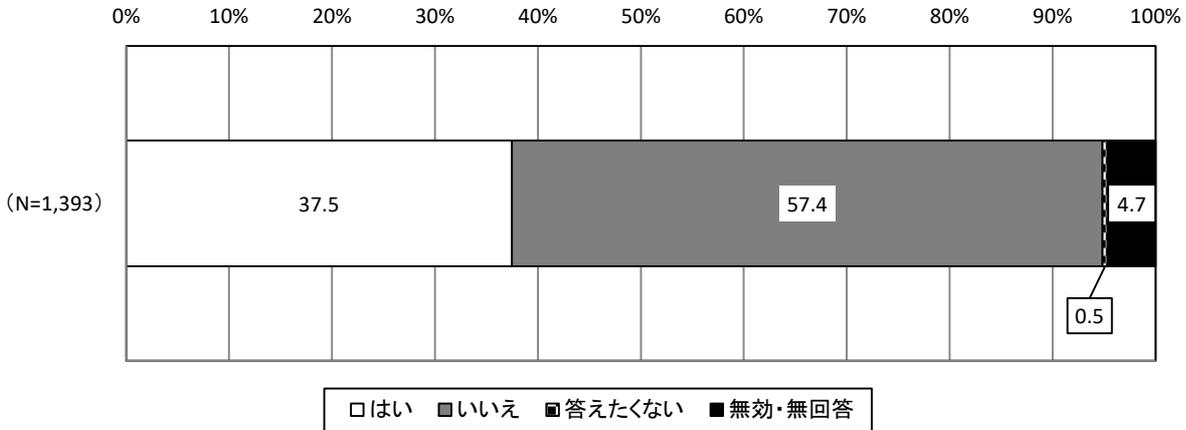
Q29. スマートフォンを授業時以外の学習にも使いますか(単に漢字やスペルを調べることは除く。例えば、レポートを書く・参考文献を検索する・参考書を読む・授業動画を見るなど)(選択必須)



Q30. 学習時間も含めてスマートフォンの利用時間は平均すると1日あたりどのくらいですか(選択必須)

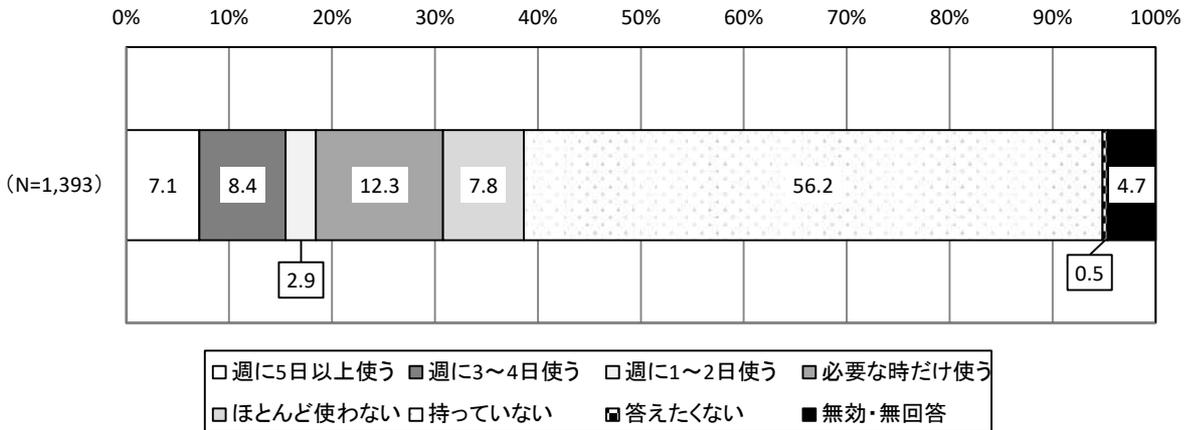


Q31. タブレットを持っていますか(看護学科生全員は「はい」を選択してください)(選択必須)

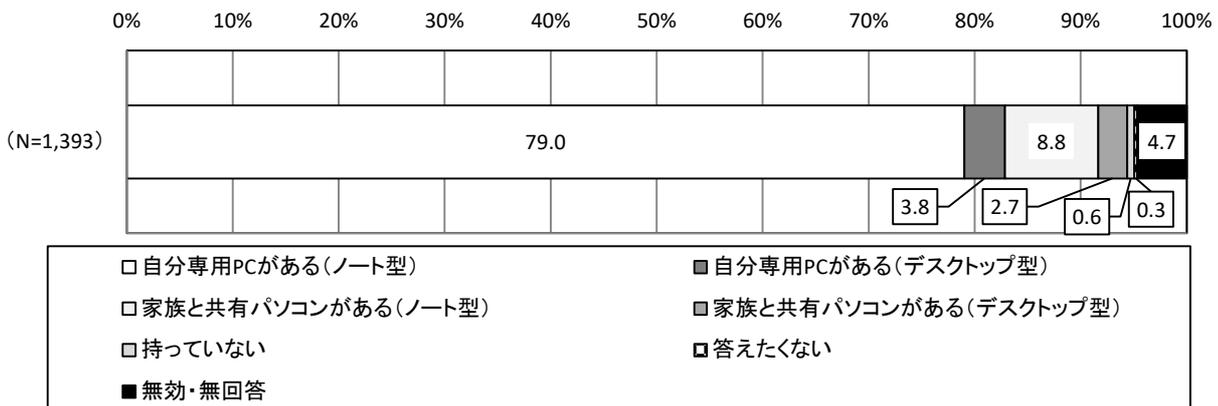


Q32. タブレットを授業時以外の学習にも使いますか(単に漢字やスペルを調べることは除く。例えば、レポートを書く・参考文献を検索する・参考書を読む・授業動画を見るなど)(選択必須)

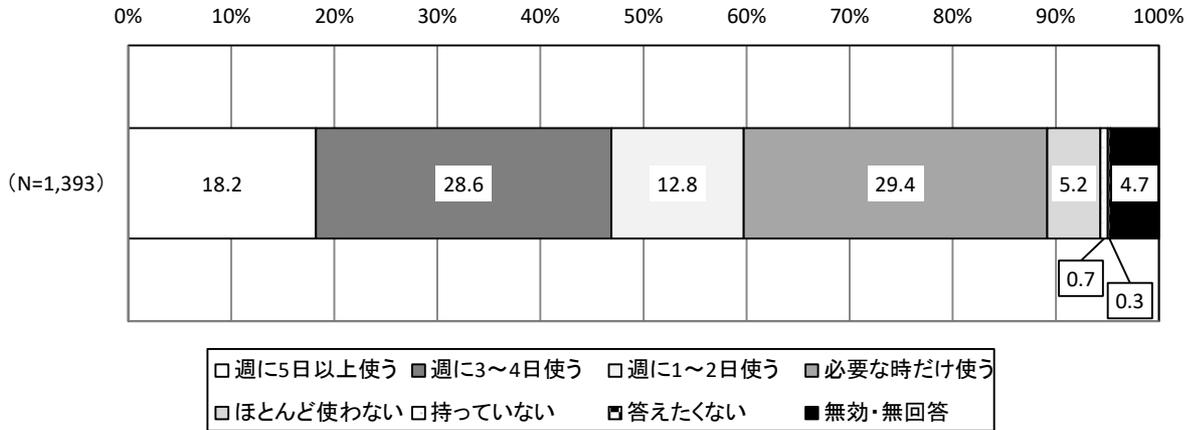
例えば、レポートを書く・参考文献を検索する・参考書を読む・授業動画を見るなど)(選択必須)



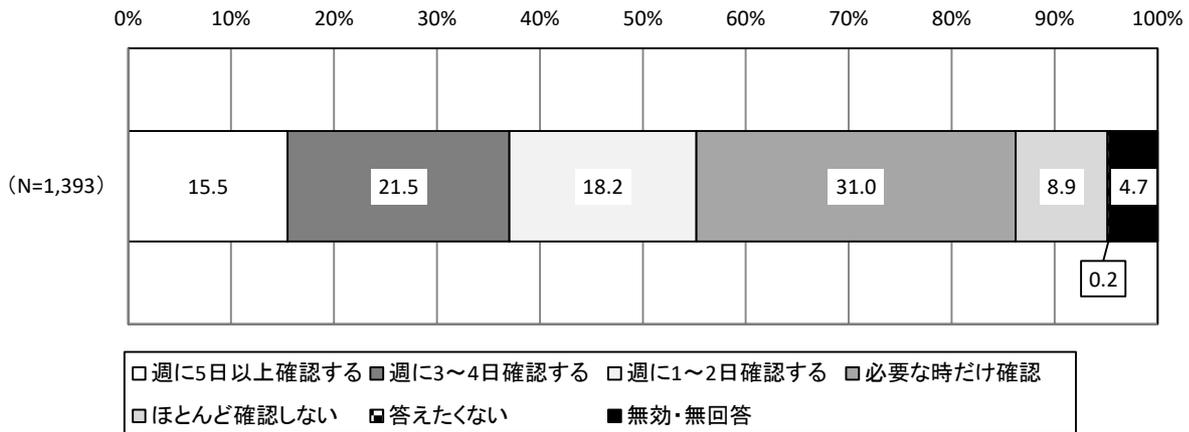
Q33. 自宅にパソコンはありますか(選択必須)



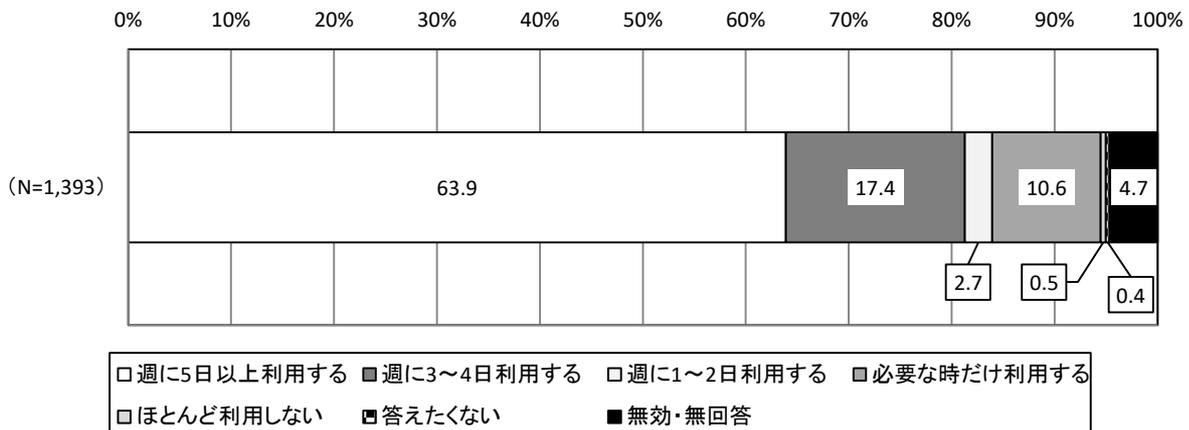
Q34. 自宅のパソコンを学習のためにどのくらい使いますか(選択必須)



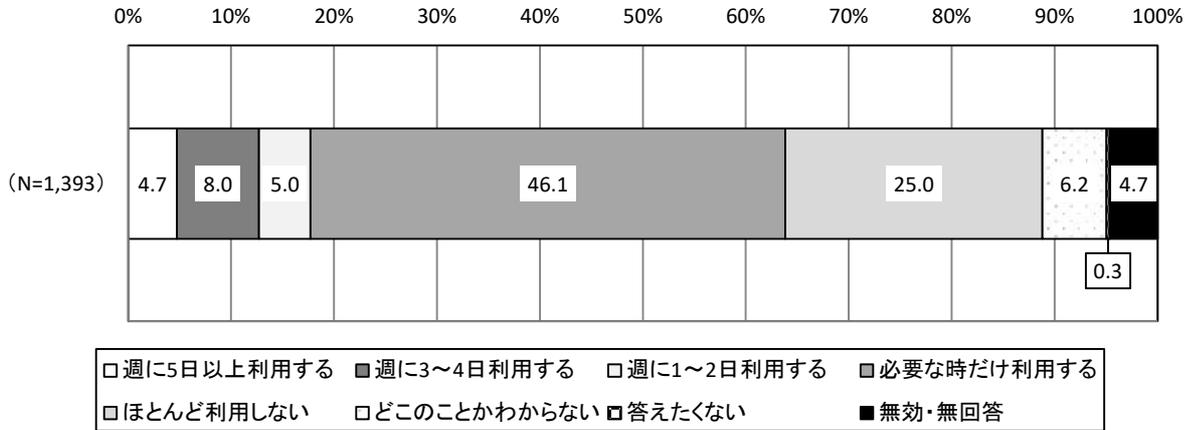
Q35. ポータルサイトからのお知らせをよく確認しますか(選択必須)



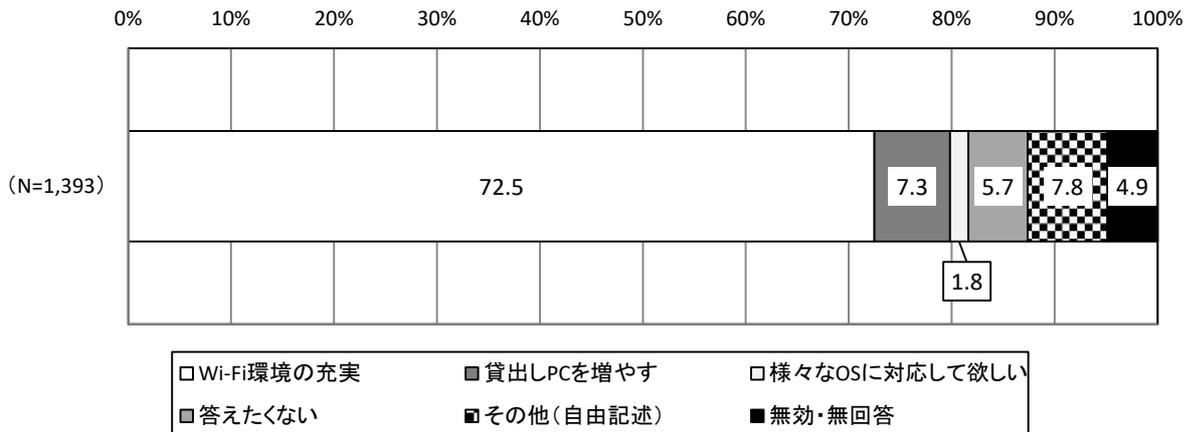
Q36. マナバコース(授業名コース)をよく利用しますか(教員の指示により利用することも含む)(選択必須)



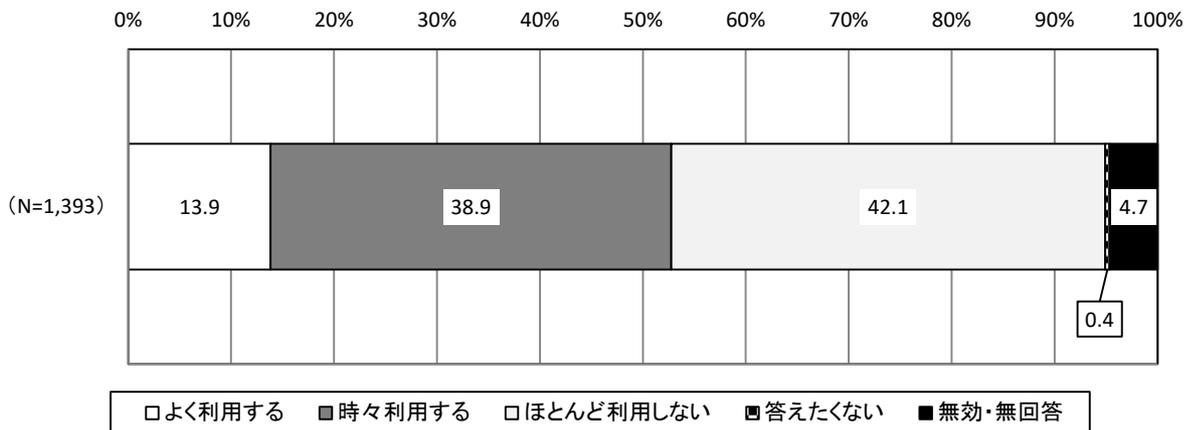
Q37. マナバコース(個人別コースの個別指導コレクション)をデータ保存場所としてよく利用しますか(選択必須)



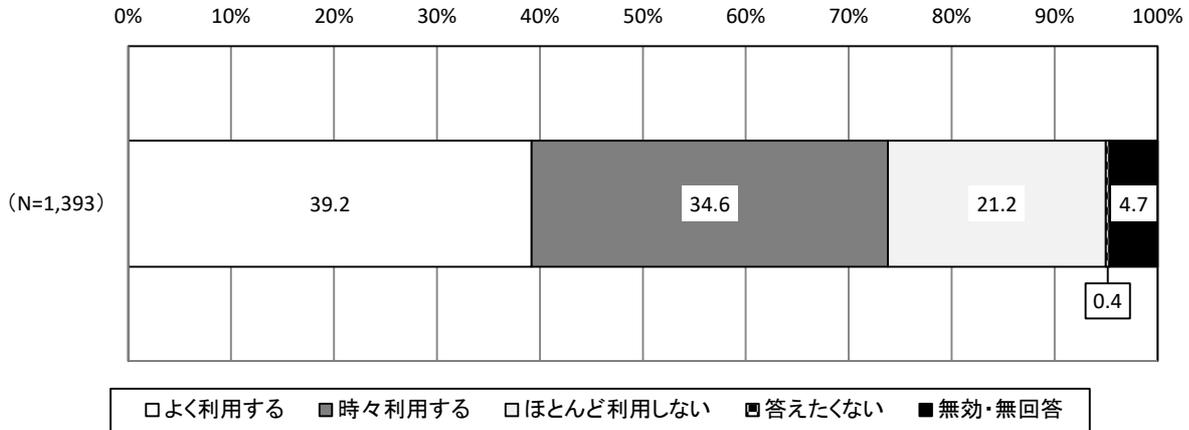
Q38. 大学のIT環境について要望があれば具体的に記述してください(任意:複数回答可)



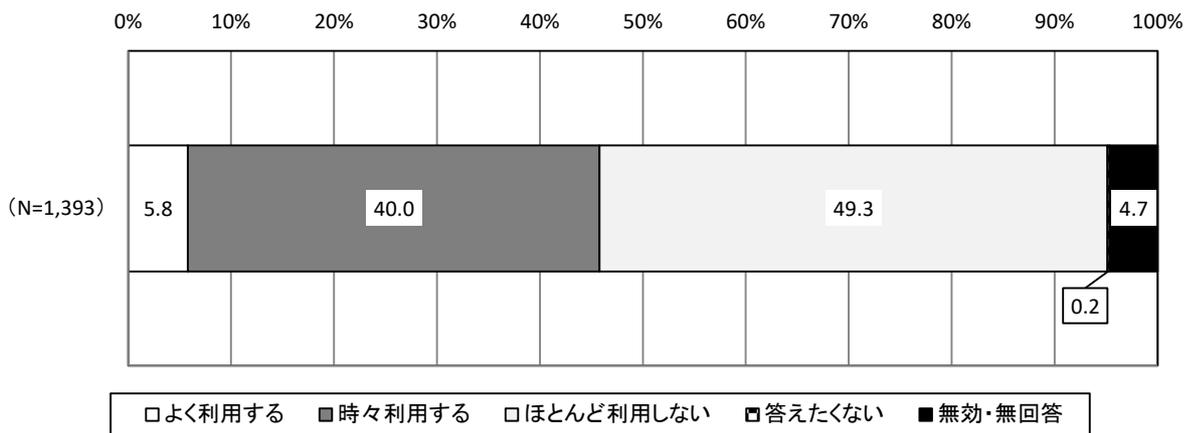
Q39. 図書館としての学術情報センターの利用頻度を回答してください(選択必須)



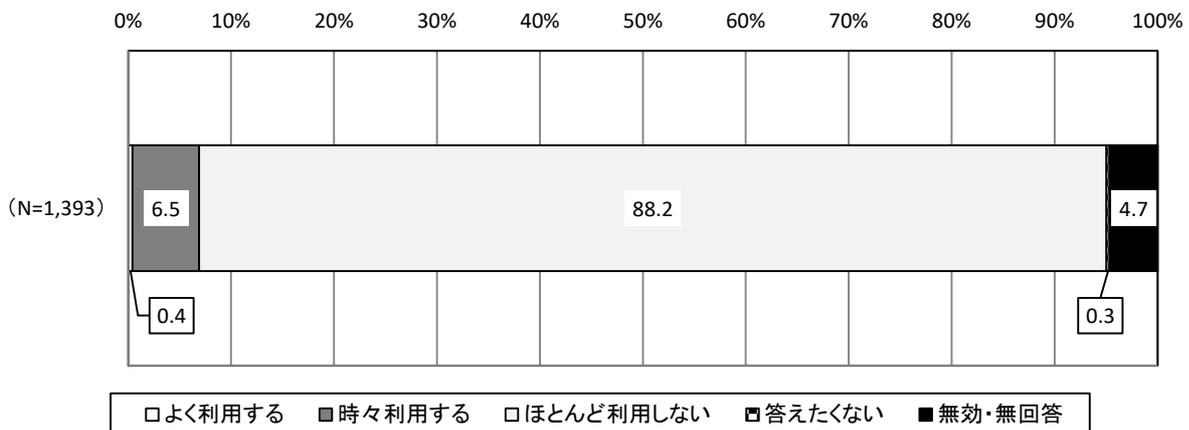
Q40 学生食堂(南館1階・体育館1階学生ホール)の利用頻度を回答してください(選択必須)



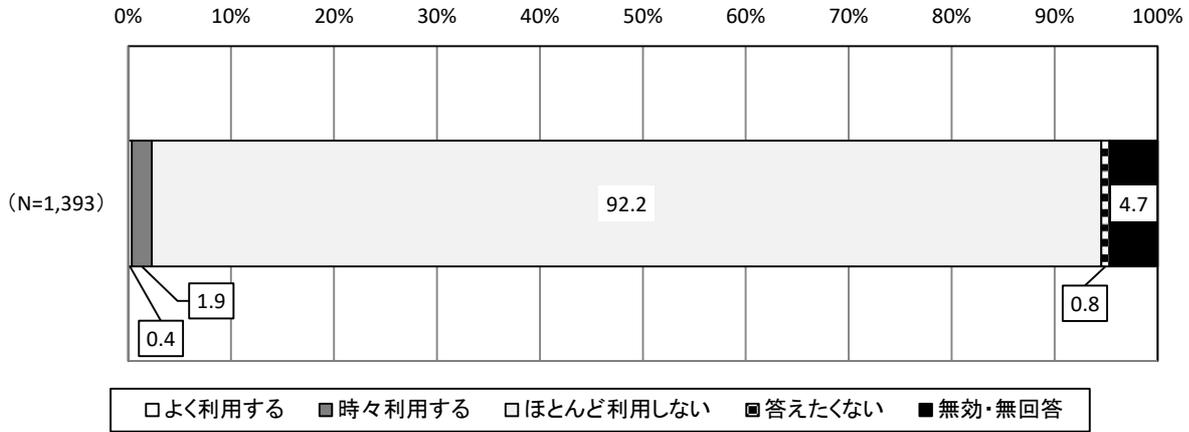
Q41 購買部・ブックセンターの利用頻度を回答してください(選択必須)



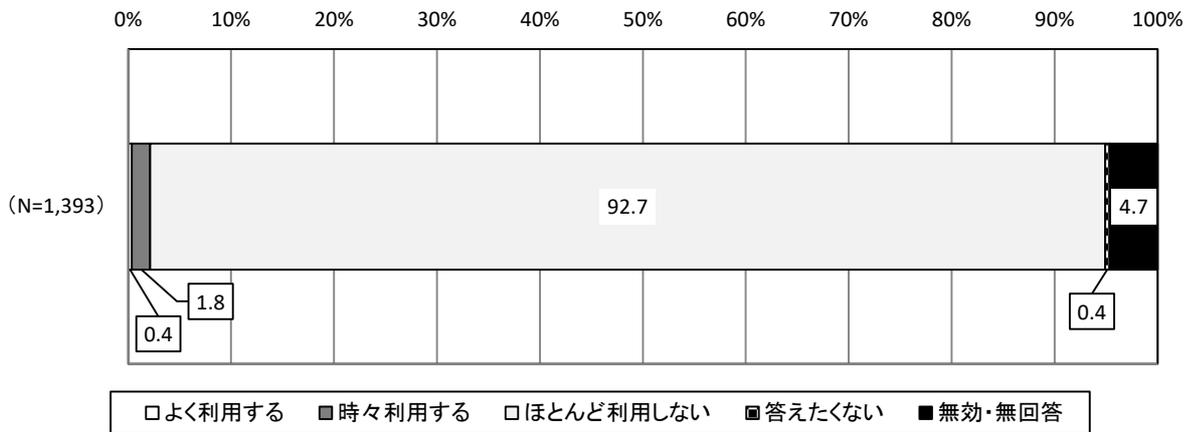
Q42 保健センターの利用頻度を回答してください(選択必須)



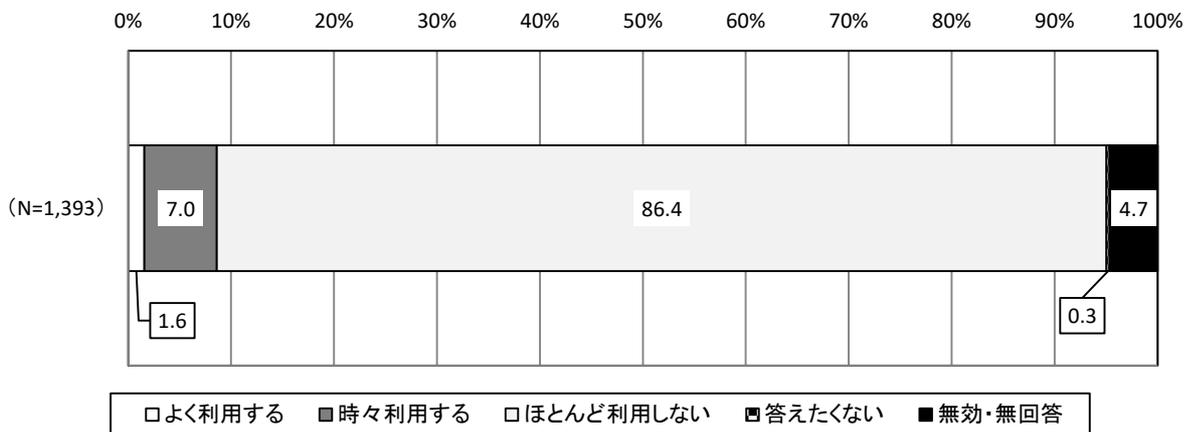
Q43 学生相談室のの利用頻度を回答してください(選択必須)



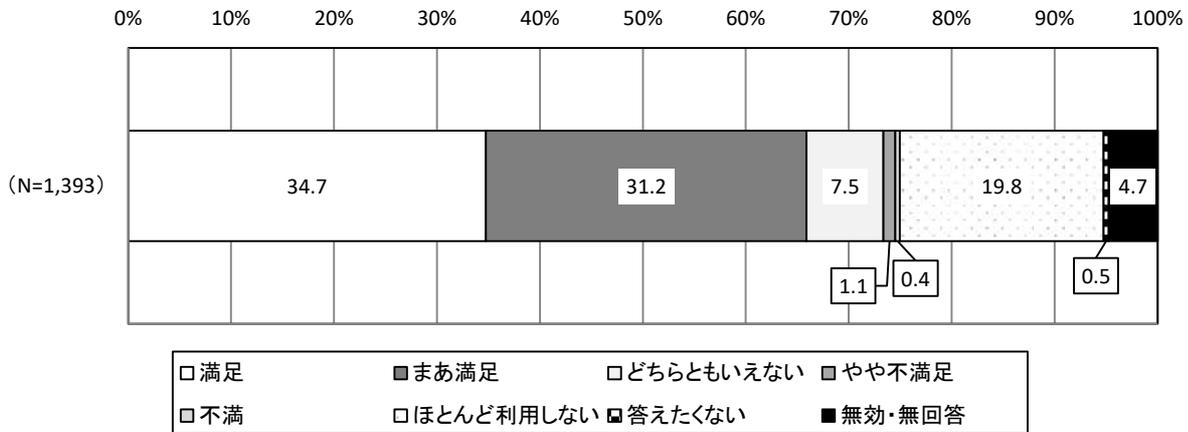
Q44 ユニバーサルサポート推進室の利用頻度を回答してください(選択必須)



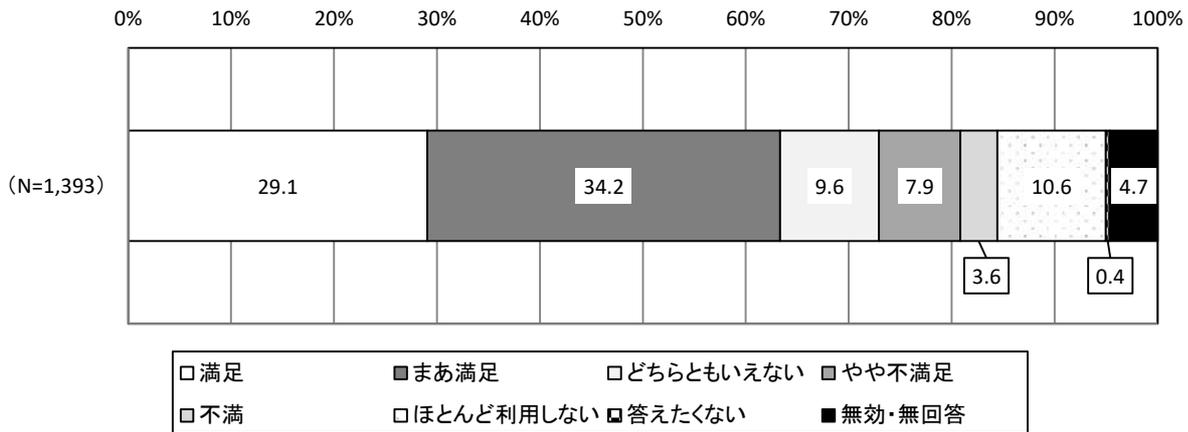
Q45 教職サポート室の利用頻度を回答してください(選択必須)



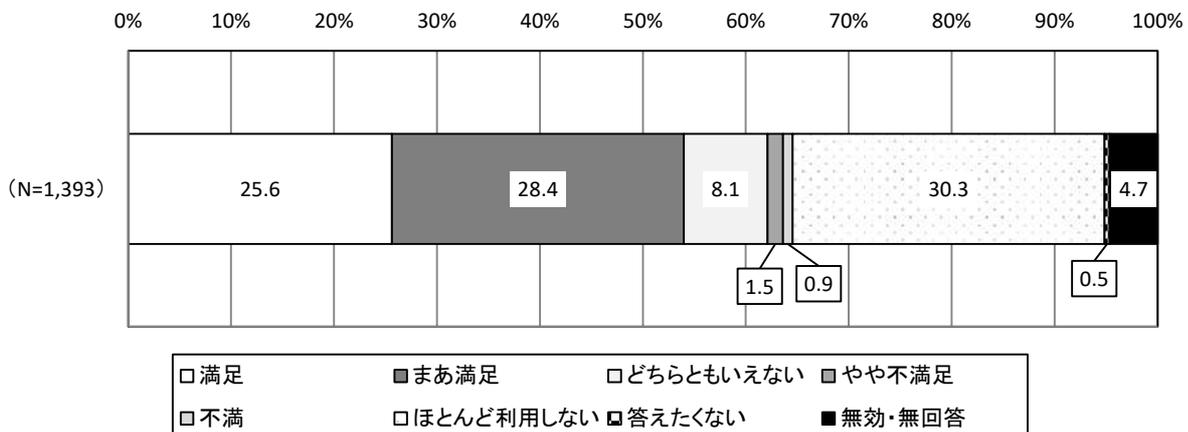
Q46 図書館としての学術情報センターの満足度を回答してください(選択必須)



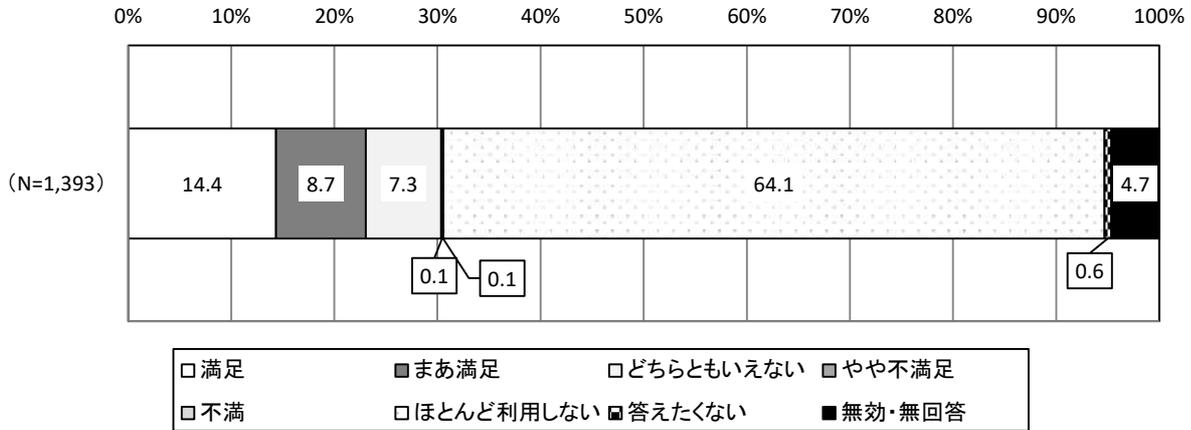
Q47 学生食堂の満足度を回答してください(選択必須)



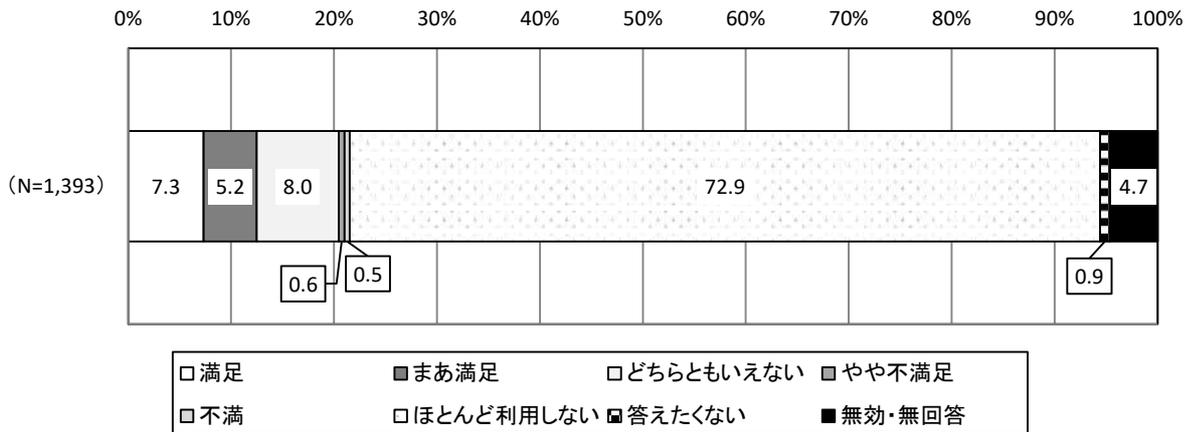
Q48 購買部・ブックセンターの満足度を回答してください(選択必須)



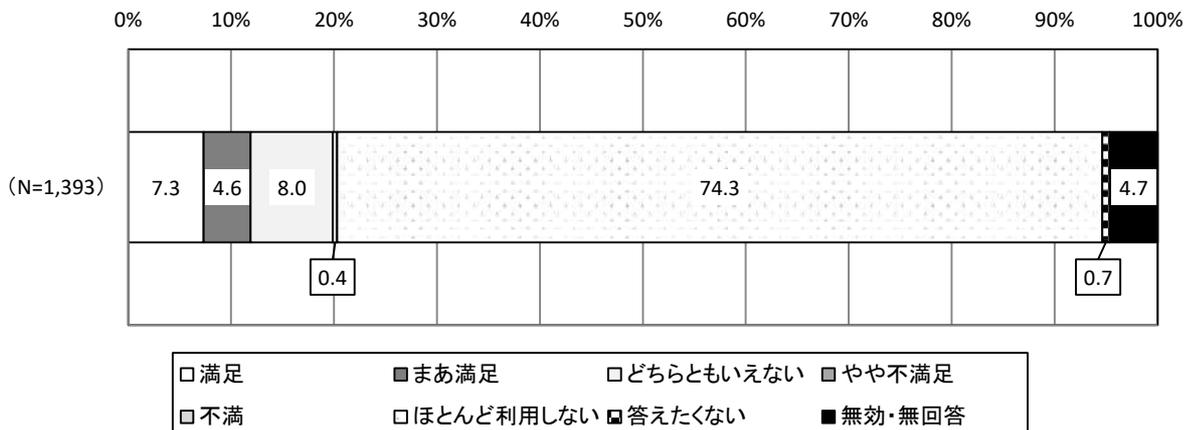
Q49 保健センターの満足度を回答してください(選択必須)



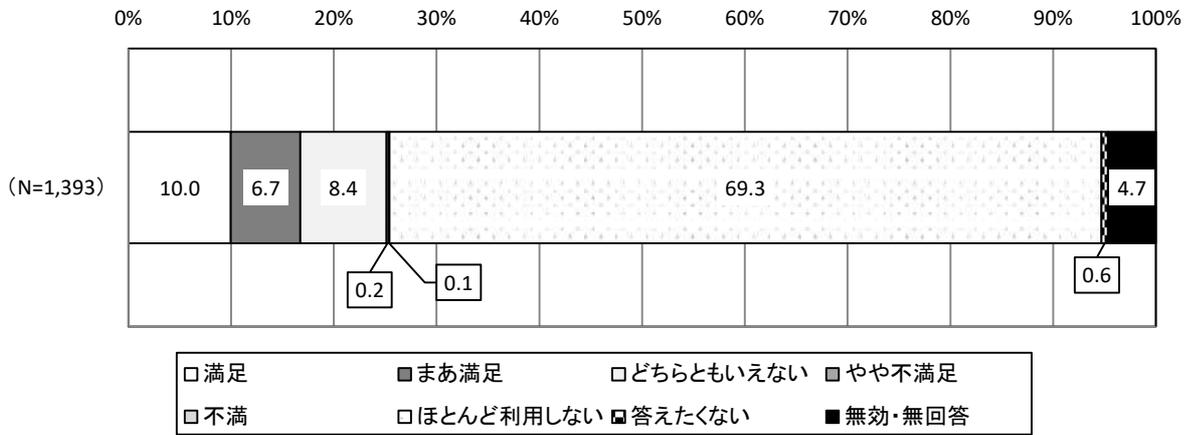
Q50 学生相談室の満足度を回答してください(選択必須)



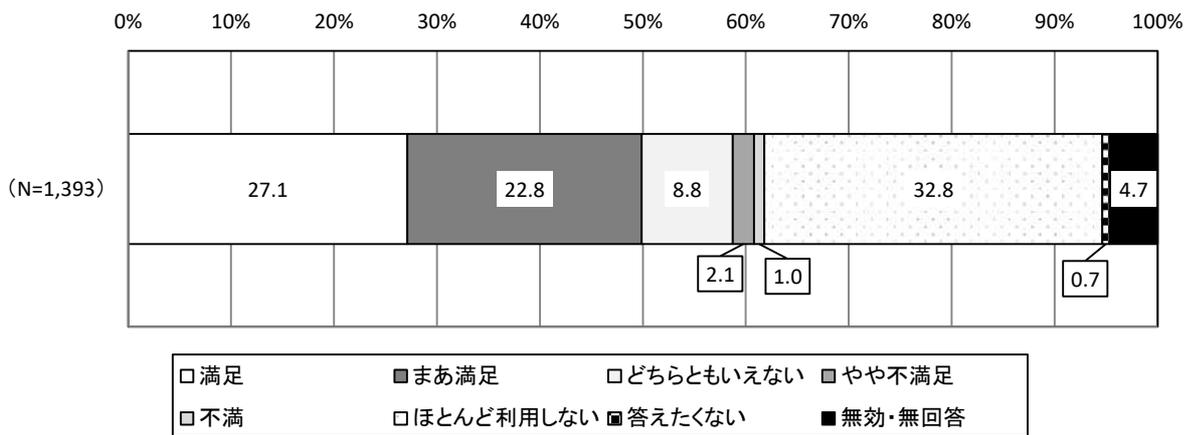
Q51 ユニバーサルサポート推進室の満足度を回答してください(選択必須)



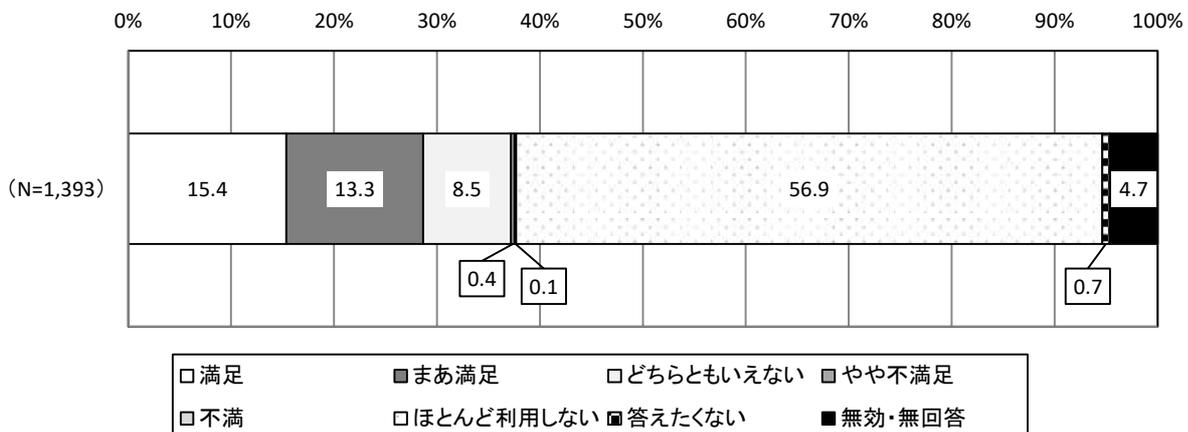
Q52 教職サポート室の満足度を回答してください(選択必須)



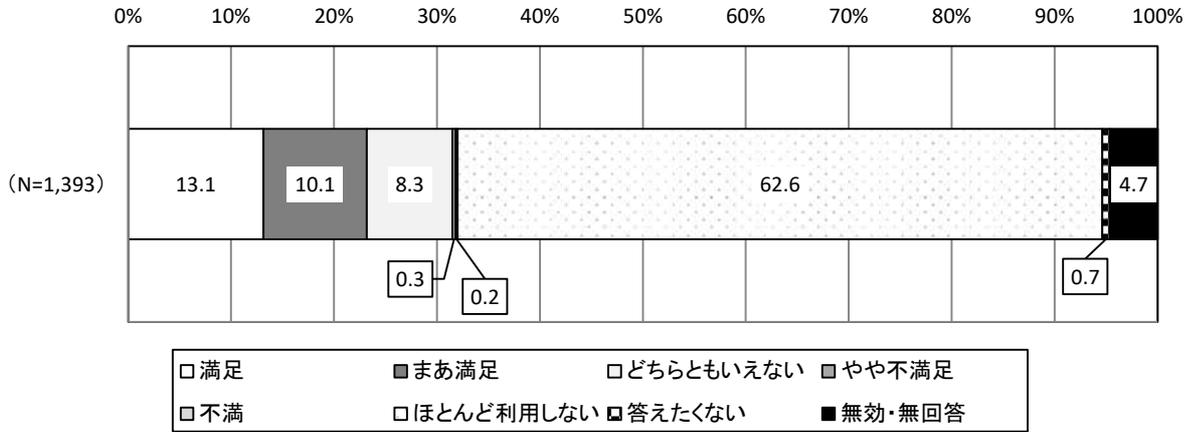
Q53 教務課の事務対応の満足度を回答してください(選択必須)



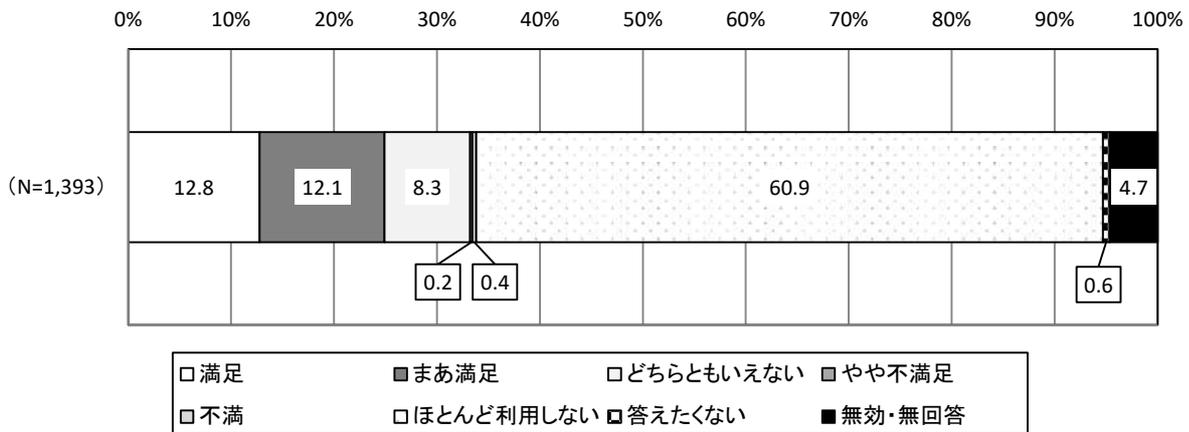
Q54 教育支援課の事務対応の満足度を回答してください(選択必須)



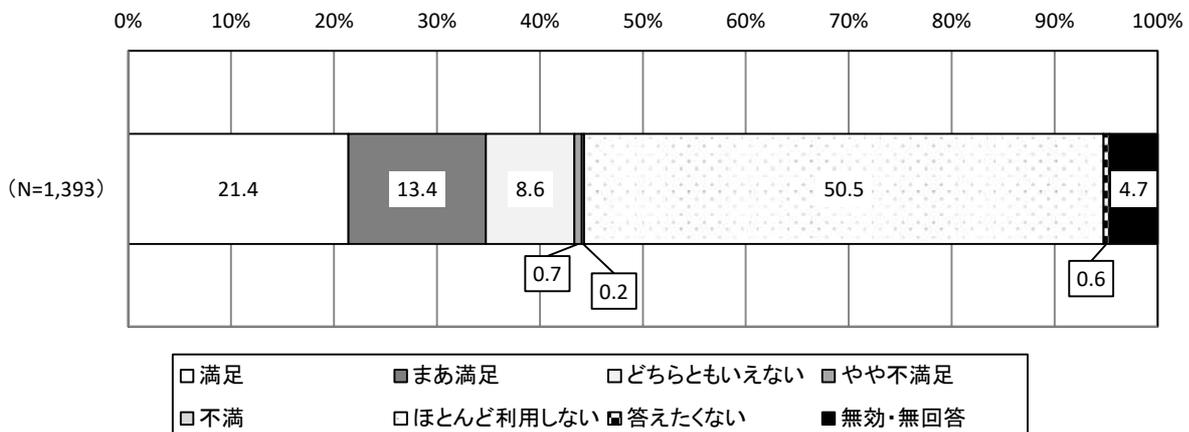
Q55 教育支援課(教職サポート室)の事務対応の満足度を回答してください(選択必須)



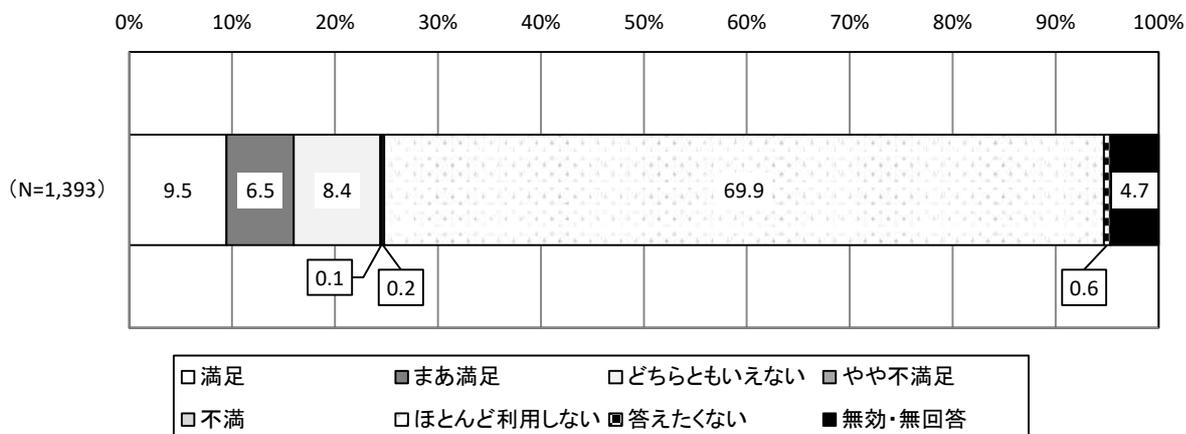
Q56 教育支援課(ラーニングステーション)の事務対応の満足度を回答してください(選択必須)



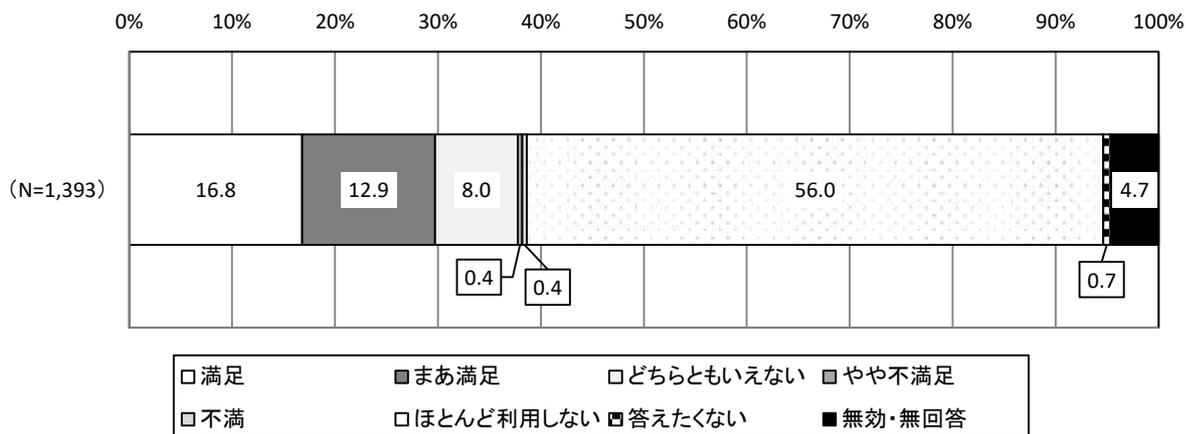
Q57 学生課(奨学金窓口)の事務対応の満足度を回答してください(選択必須)



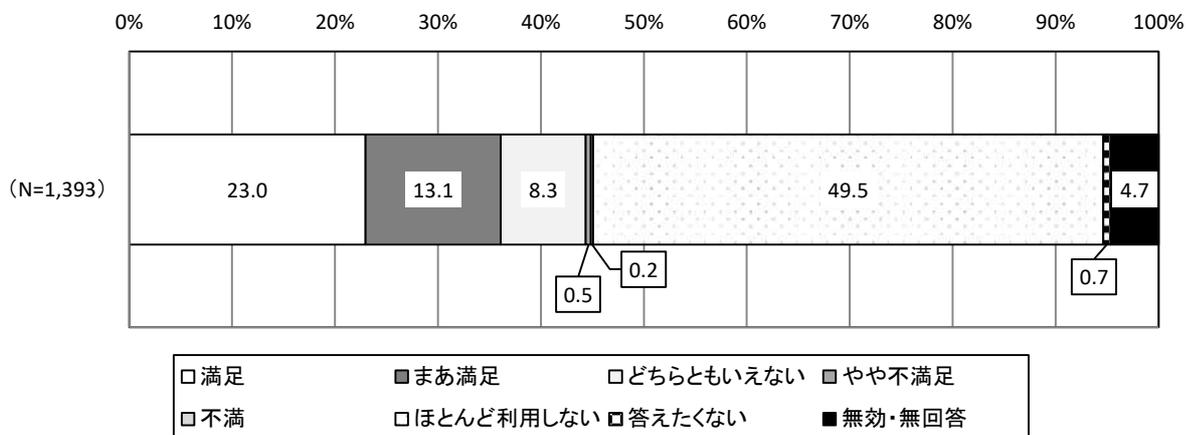
Q58 学生課(国際交流センター)の事務対応の満足度を回答してください(選択必須)



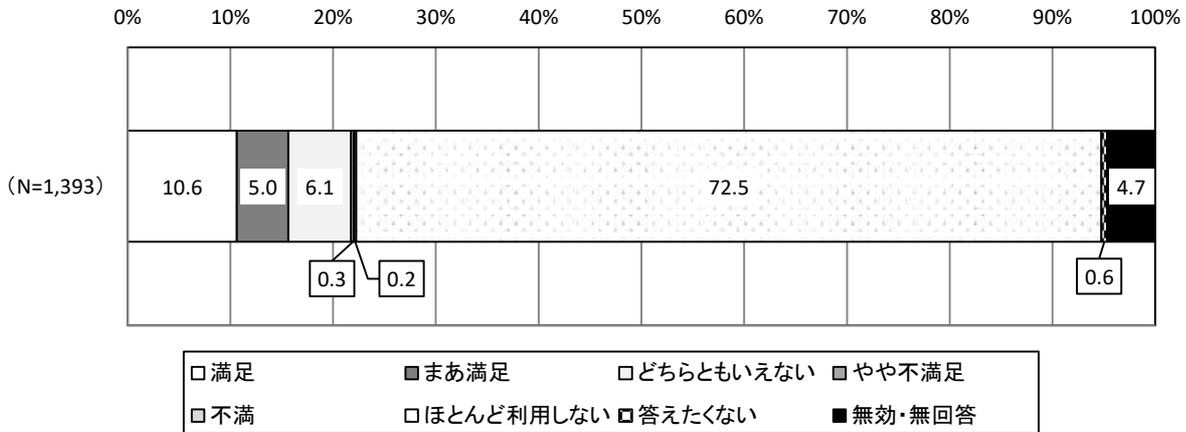
Q59 学生課(その他学生課窓口)の事務対応の満足度を回答してください(選択必須)



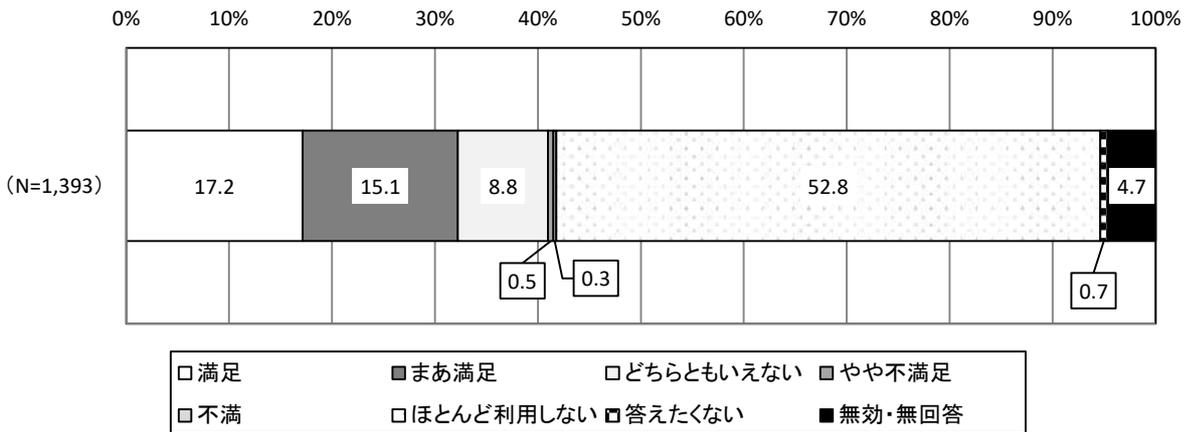
Q60 進路支援センターの事務対応の満足度を回答してください(選択必須)



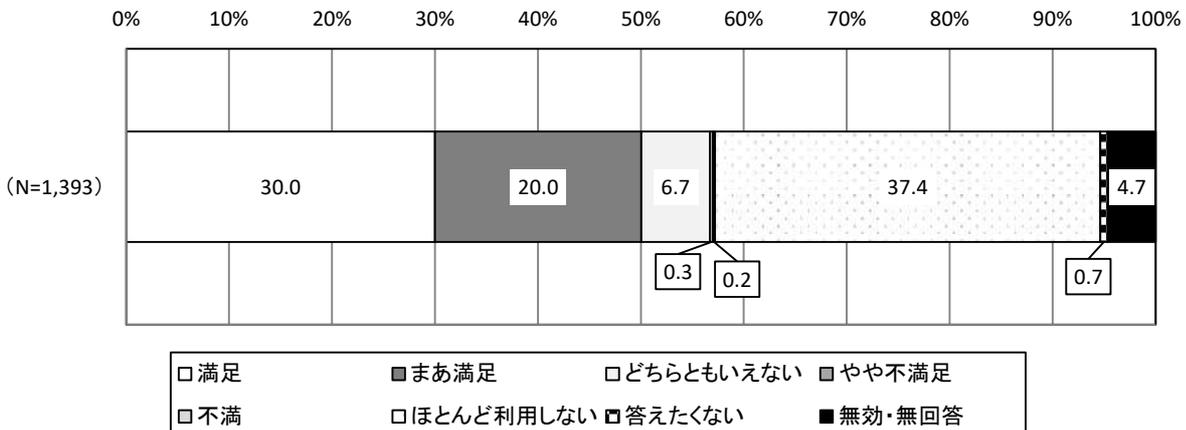
Q61 さとみ館事務室の事務対応の満足度を回答してください(選択必須)



Q62 学術情報センター(システム関係)の事務対応の満足度を回答してください(選択必須)



Q63 学術情報センター(図書館関係)の事務対応の満足度を回答してください(選択必須)



人文学部学生における学修時間及び学修行動の状況

人文学部長 矢藤誠慈郎

1 学修時間の状況

授業時間外の学習時間について、全学では3時間以上が11.3%、2時間以上3時間未満が24.1%、1時間以上2時間未満が36.9%、1時間未満が13.7%、「あまりしない」が4.4%となっている。これを踏まえて人文学部の各学科の状況を見てみる。なお概ね高学年ほど回答率が低い傾向があることを考慮に入れる必要がある。なお、以下の「多い」「少ない」は相対的な評価であることを付しておく。

日本文学文化学科

全学年を通じては、3時間以上が5.0%、2時間以上3時間未満が22.2%、1時間以上2時間未満が41.8%、1時間未満が17.2%、「あまりしない」が4.2%となっている（下線は全学平均より高いもの）。

学年別に、3時間以上→2時間以上3時間未満→1時間以上2時間未満→1時間未満→「あまりしない」の割合を見ると、1年生は4.3%→20.3%→43.5%→20.3%→2.9%、2年生は5.9%→23.5%→47.1%→8.8%→4.4%、3年生は3.1%→28.1%→34.4%→18.8%→7.8%、4年生は7.9%→13.2%→42.1%→23.7%→0.0%であり、1年生で学習時間が少なく2年生で学習時間が多いが3、4年生ではやや二極化している（下線は学科平均より高いもの）。

心理学科

全学年を通じては、3時間以上が3.9%、2時間以上3時間未満が22.0%、1時間以上2時間未満が40.2%、1時間未満が20.5%、「あまりしない」が3.1%となっている（下線は全学平均より高いもの）。

学年別に、3時間以上→2時間以上3時間未満→1時間以上2時間未満→1時間未満→「あまりしない」の割合を見ると、1年生は0.0%→20.0%→51.1%→22.2%→0.0%、2年生は6.5%→25.8%→45.2%→16.1%→3.2%、3年生は8.3%→29.2%→29.2%→16.7%→0.0%、4年生は3.7%→14.8%→25.9%→25.9%→11.1%であり、1年生と4年生で学習時間が少なく、2年生と3年生で多い傾向にある（下線は学科平均より高いもの）。

こども発達学科

全学年を通じては、3時間以上が11.9%、2時間以上3時間未満が28.2%、1時間以上2時間未満が39.5%、1時間未満が11.9%、「あまりしない」が1.7%となっている（下線は全学平均より高いもの）。

学年別に、3時間以上→2時間以上3時間未満→1時間以上2時間未満→1時間未満→「あまりしない」の割合を見ると、1年生は3.4%→33.9%→42.4%→10.2%→3.4%、2年生は14.6%→29.3%→34.1%→17.1%→0.0%、3年生は22.2%→26.7%→40.0%→4.4%→0.0%、4年生は9.4%→18.8%→40.6%→18.8%→3.1%であり、1年生、3年生で学習時間が多く、2年生はやや二極化、4年生は少ない（下線は学科平均より高いもの）。

2 全学科を通じた学習行動の状況

以上より、ほとんどの学生は授業外において一定の学習時間を費やしているといえる。4年生で少ない傾向にあるのは、大部分の学生が3年生までに多くの単位を履修済みであるからであろう。またこども発達学科は全員が幼稚園教諭免許及び保育士資格を取得することを前提としたカリキュラムであるために、実習の事前事後の学修や関連授業の課題等が比較的多い学科であることを反映しているといえる。

「あまりしない」という回答は学修からの離脱の兆候である可能性があり、履修状況が芳しくないあるいは中途退学する学生数等の動向を参照する必要があるかもしれない（履修状況が著しく芳しくない学生は回答もしていない可能性が高いが）。

学習時間以外の設問への回答を参照してみると、各学科とも教育目標の認知、カリキュラムの満足度、は概ね全学平均を超えている。専門科目（講義）の満足度も概ね高い。専門科目（卒論・ゼミ・実習等）については、比較の実技が多く徐々に専門が深まる日本文学文化学科は学年を追って満足度が高まり、心理学科はゼミが本格化する3年生以降で著しく高まり、こども発達学科は、実習が始まる2年生から4年までかなり高い。勉強の目標や取り組みはこども発達学科が全学平均よりかなり高く、資格免許取得を旨とする学科の特徴であろう。

以上

学修時間の実態及び学修行動の把握とそれに基づく学修指導の展開について
～2022年度学生生活アンケート報告書を中心に～

国際学部長 里正明伍

(1)学修時間の実態の把握

学修時間は授業内と授業外の2つの部分から構成されるが、授業時間は決まっております従って課外学修時間調査により全体像の把握が可能となる。2022年度の学生生活アンケート調査では、2020年度と同じく「授業以外の学修(学習)時間は平均すると1日あたりどのくらいですか。課題やレポート作成などの時間も含まれます。」という設問によって当該調査が行われた。まず、大学平均では授業外学修時間が減少していることが確認された(「3時間以上」：23.4%から11.3%へ、「2時間以上」：31.5%から24.1%へ、「1時間以上」：25.6%から36.9%へ、「1時間未満」：9.8%から13.7%へ、「あまりしない」：4.5%から4.4%へ)。国際学部の場合も同様に減少が確認される(「3時間以上」：21.3%から10.6%へ、「2時間以上」：36%から18.62%へ、「1時間以上」：22.1%から36%へ、「1時間未満」：8.9%から18.5%へ、「あまりしない」：5.3%から7.3%へ)。この変化は恐らくCOVID-19がある程度収まり対面授業が増えたことによるものと思われる。ただ国際学部の場合、事前・事後学習等で授業外の学習時間を相当要する海外研修・留学や産学地域連携のような科目に関心を持つ学生が多いが、これらの活動の一部は課外学修時間として意識されていない可能性もある。アンケートでは「大学で良いと思う点」として海外研修・留学を挙げている割合は大学平均(4.1%)を大きく上回る15.2%で「学外活動(産学連携など)」も大学平均(3.8%)を若干上回っている(5.1%)。ただ、予習・復習を中心とした授業外学修時間を増やす必要があるように思われる。

(2)学修行動の実態分析

課外学修行動については、定義自体難しいところもある。例えば、学習量・時間がある程度明確に意識される予習、復習のような「宿題」型学習、特定の技能取得、もしくは課題解決を目標として行われる「目標」型学修活動、さらには「教養」が身に付く課外学修活動、なども考えられる。これらを指標化してアンケートに盛り込むことが求められるように思われる。それとの関連で今回のアンケートから国際学部学生の図書館利用やタブレット等のICT活用などについて注目したい。「図書館としての学術情報センターの利用頻度」では、「よく利用する」と「時々利用する」の合計で大学平均(52.8%)を上回っている(64.7%)。これが課外学修時間にどの程度反映されているかも確認が必要のように思われる。また国際学部国際学科の場合、タブレットの所持率が全学平均(37.5%)より高く(76.1%)、「タブレットでの学習頻度」も全学平均(「週に5日以上使う」：7.1%、「週に3～4日使う」：8.4%)より高い(「週に5日以上使う」：19.3%、「週に3～4日使う」：31.8%)。国際学科では「いつでもどこでも」勉強ができるようにという思いも込めて学生にタブレット使用を勧めており、実際そのような使われ方が確認されている。これによりどの程度課外学修時間が増えたかについても確認をする必要があるように思われる。

(3) 今後の課題と対策

今回のアンケートで国際学部の学生のアルバイトの時間が全学平均より多いことが若干気になるところである。「週に5日以上している」では全学平均が2.4%であるのに対し国際学部は6.2%、「週に3～4日している」では全学平均が38.6%であるのに対し、国際学部は47.7%となっている。「アルバイトをする理由」で「教科書や英会話などの学習費」と「社会経験」がそれぞれ20.2%と55%で大学平均（それぞれ16.2%と47.5%）より高く、広い意味では学修につながる部分も確認されるが、しかしそのために予習・復習等の課外学修時間が少なくなるのであれば支援も含め対応が必要のように思われる。

国際学部ではこれまでも課外学修時間を増やすためにPBL関連課題面の工夫を図り、そして課外学修施設としても機能するグローバルラウンジ・ラボを利用して正課外の講義等を設け学生に参加を促してきたが、これからもっとそのようなプログラムの実施に注力していく必要があるように思われる。また前述の「目標」型課外学修活動や「教養」型課外学修活動を測定する指標について研究を深め課外学修指導体系を整備していく必要があるように考える。

以上

1. 2022 年度学生生活アンケートに基づく家政学部学生の学修実態

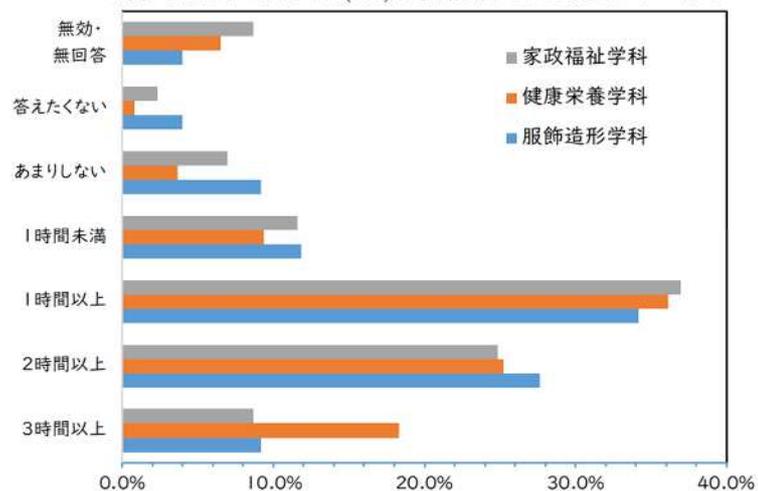
学科ごとに特性があり、在籍学生の修学目的も異なるため、単純に家政学部内の学科比較することには無理がある。また、アンケートの回収率が学年や学科ごとに異なっており微小な差の評価は無理がある。そのため、おおよその傾向から必要に応じて次年度以降の課題を抽出した。

1) 学修時間の実態

授業時間外の学習時間 (Q6) がという設問が学修時間を反映するかについては議論があるが本稿ではこの疑念への深入りはしない。

右図に示すように「1 時間以上」が約 35%、「2 時間以上」が 25%という家政学部全体の傾向は、全学の傾向と同等であった。なお、「3 時間以上」と回答した学生の割合は健康栄養学科学年計で 18% (家政福祉学科・服飾造形学科共に約 9%、大学全体で約 11%) と突出して高かった。この差は、「1 時間未満」と「あまりしない」の合計とほぼ一

授業時間以外の学習時間(Q6)各学科比較:2022学生アンケートより



致しており、健康栄養学科以外の学科では授業以外での学修時間が少ない層が一定数いることを推察することができる。マスで見た場合には、「国家試験」と関係している可能性は高い。

2) 学修行動

学部内 3 学科の専門講義科目の満足度 (Q8) には大きな差は無かった。一方、卒論・ゼミ・実習等の専門科目の満足度 (Q9) は家政福祉学科が他 2 学科に比べて若干低い傾向があった。家政福祉学科は家政福祉と児童福祉の 2 コース制に分かれているため、満足度についてはコース内での比較も必要であろう。

COVID-19 は学修行動に大きな影響があったという仮説のもと、2018 年 (C 以前)、2020 年 (C 最中)、2022 年 (C 以降) のトレンドを比較した。専門講義科目の満足度 (Q8) は服飾造形学科と家政福祉学科においては COVID-19 時の落ち込みが見られず、健康栄養学科でのみ満足度が C 最中に低下し、C 以降で回復した。また、卒論・ゼミ・実習等の専門科目の満足度 (Q9) は全学科とも COVID-19 の影響はほとんど見られなかった。一方、各学科共通の傾向として、「カリキュラム満足度 (Q2)」と「勉強目標がはっきりしているか (Q3)」の

「よく合っている」と「だいたい合っている」の合計がC以降低下する傾向が見られた。

2. 次年度以降の課題

授業時間外の学習時間が少ないことは今回のアンケートだけではなく、授業評価アンケートにも現れている。授業時間外の学習時間が少ないことが一概に悪いわけではないが、学生として「あまりしない」を含め最頻値が1時間以上(2時間未満)というのは少なすぎると思われる。資格系科目では導入が容易ではないが、課題解決型学習の要素を含めたカリキュラムの割合を増やす等の取り組みを通じ、自らの意思で深掘をしたくなるような課題提供の仕方を、これまで以上に工夫する必要があると思われる。その際に、学生に対しては「机の前で鉛筆を持って行う」ことだけが授業外学修であることや企業コラボ等の授業に該当しない「課外学習」を通じた学修も含まれる等を周知したアンケートの取り方工夫も必要であろう。

家政学部は冬の時代である。世の中の家政学の印象には「良妻賢母」の影が色濃く残っているためである。現在の家政学が力点を置いている家族関係学や消費者教育といった点を前面に出したカリキュラム構成や勉強の目的がより明確になるような仕組みとなるよう組織改革を並行して取り進める必要がある。

以上

看護学部の学生生活に関するアンケート調査報告書まとめ

看護学部長 中澤明美

1. 大学生生活全体および授業満足度の実態から

「大学で不満だと思う点」「大学で良いと思う点」・「専門科目講義の満足度」について、学年によってははっきりと差が表れた。**不満な点**は、2年生：カリキュラムの内容(21.1%) 教員の教え方(31.6%)に対し、1年生では、カリキュラムの内容(4.5%) 教員の教え方(13.6%)大きく減少し、**良いと思う点**は、2年生：カリキュラムの内容(5.3%) 教員の教え方(5.3%)に対し、1年生では、カリキュラムの内容(36.4%) 教員の教え方(31.8%)大きく上昇した。「**専門科目の講義満足度**」は、満足・まあ満足を合わせると3年生：65.2% 2年生：68.4% 1年生：89.4%と1年生では満足度が高かった。2年生、3年生は入学時からコロナ禍により遠隔授業を余儀なくされ、看護学生が学びの充実感や達成感を得ることができる看護技術演習科目ができずにいたことが大きく影響をしていると思われる。1年生は対面授業が大幅に増えて実習室での演習科目もできるようになったことは学生の学びの満足度につながった。

「**大学の全体的な満足度**」では、満足・まあ満足を合わせると3年生：60.8% 2年生：47.4% 1年生：81.8%であり、1年生は大学全体の73.0%に比べても高い満足度であり、やはり大学生生活の大きな部分を占める学習に対する満足度が、学生生活満足度に影響していることが読み取れる。

2. 学修時間と学修行動の把握と活用

授業時間外の学習時間は、3時間以上では、3年生：39.1% 2年生：0.0% 1年生：15.2%と学年によりはっきりと違いが表れた。3年生はこの時期は臨地実習の真っ最中で実習レポートや課題に多くの時間を費やしていることがわかる。「1時間以上2時間まで」では、3年生：8.7% 2年生：31.6% 1年生：37.9%だった。3年生では1時間未満は0.0%でありほぼ全員が1時間以上学習していることがわかった。半面2年生は1時間未満が23.7%で中だるみの学年になっていることも明らかになった。

「勉強目標がはっきりしているか」については、(している・だいたいしている)を合わせると3年生：69.5% 2年生：76.3% 1年生：92.4%であり、大学全体の69.3%をどの学年も超えており看護学生としての目標の明確さが表れている。「勉強目標に向かってよく取り組んでいるか」は(そう思う・まあまあ思う)を合わせると3年生：69.5% 2年生：57.9% 1年生：74.2%であり、3年生と1年生は大学全体の59.8%を超えており看護学生としての目標が学習行動につながっている。

2年生、3年生、4年生は入学時からコロナ禍の影響で看護学生としての学習の醍醐味ともいえる看護技術演習と臨地実習に大きな制限を受けた。そのことが大学生活や授業満足度にも大きく影響を与えた。2022年度に入学した1年生が、授業や大学生活に対する満足が他の学年に比べ大きく改善していることは何より良い兆しと捉えたい。

3. 看護学部における今後の教育活動の課題と方針

コロナ禍に入学した4.3.2年生に比べ1年生の満足度や学習取り組み状況に明らかな改善が見られた。看護学部生は、入学時より将来の職業選択が明確であるため4年間そのモチベーションを下げることなく職業としての看護の魅力を発信できる教育課程（講義・演習・実習）を構築する。学生が入学時の目標である看護職として社会に貢献できるよう全員の資格取得を目指した教育活動を展開したい。

以上

学修時間と学修行動の実態からの授業等学習活動への提案

全学教育センター 田口久美子

全学教育センターでは、manaba などの学内の ICT に関する教育を所管していることから、モバイル通信端末・PC の利用実態の結果から、今後の学修への示唆を記述する。

スマートフォン（以下スマホ）の所有率は 95.2%、学習頻度については 3 割以上の学生が週に 5 日以上用いており、週 3・4 日以上では 5 割以上と多くの学生がスマホを学習に用いている様子がうかがえる。学習時間を含めた使用時間は 8 時間以上が 21.5%、6 時間以上が 30.6%、4 時間以上が 30.4%と、スマホ依存の実態が浮かび上がった。スマホを用いた学習時間の把握は難しいが、8 割強の学生が、4 時間以上スマホを用いており、その一部を学習に充てていると推測できる。

タブレットの所有率は 37.5%、うち週に 3, 4 日以上タブレットを用いて学習するのは約 4 割であり、全体では約 1 割強の学生がタブレットを用いて週 3, 4 日以上学習をしている。

PC（自分専用のノート型）の所有率は全体で 8 割弱と昨年の調査の 7 割強を上回り、自分専用のノート型パソコンの普及が高まっていた。また、自分専用の PC（デスクトップ型）の所有率は 3.8%、家族と共用の PC（ノート型とデスクトップ型）の所有率は 11.5%であった。「持っていない」と回答したのは 0.6%、「答えたくない」が 0.3%であった。自分専用のノートパソコンの所有が 8 割弱であることから、PC の必携化が 2024 年度入学生から始まることを見据え、学内における PC の貸し出しなどを含めた運用ルールについて構築していく必要性が確認された。PC での学習は、週に 3, 4 日以上使う学生が 5 割弱である。

端末別にみると、最も使用時間が長いのはスマホであることを踏まえ、学生たちには、スマホを用いた学習（e-learning）を推奨し、基礎学力や就活に必要な一般教養などを修得させる方法が考えられる。

また、manaba コースの利用は、週に 5 回以上が 63.9%、週に 3・4 日以上が 17.4%と週に 3・4 日以上利用している学生が 8 割と多い。コロナの影響もあり、2020 年度から利用が促進され、教材配信のほか、教員と学生をつなぐコミュニケーションのツールとして manaba の利用が定着してきていることが考えられる。2024 年度以降は、Teams による学習が導入されることになっていることから、manaba コースや Teams をうまく組み合わせて、web を上手に活用した学修が期待されることである。

以上